河合町議会会議録

令和7年 6月11日 開会

河合町議会

令和7年第2回（6月）河合町議会定例会会議録目次

第 2 号 （6月11日）

○議事日程	1
○本日の会議に付した事件	1
○出席議員	1
○欠席議員	1
○出席説明員	1
○議会事務局出席者	2
○開議の宣告	3
○一般質問	3
岡 田 康 則	3
中 山 義 英	12
杵 本 貴 司	37
梅 野 美智代	52
佐 藤 利 治	64
○散会の宣告	86
○署名議員	87

令和 7 年 6 月 1 1 日（水曜日）

（第 2 号）

令和7年第2回(6月)河合町議会定例会会議録

議事日程(第2号)

令和7年6月11日(水)午前9時30分開議

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員(12名)

1番	杵本貴司	2番	常盤繁範
3番	梅野美智代	4番	佐藤利治
5番	中山義英	6番	坂本博道
7番	長谷川伸一	8番	杵本光清
9番	大西孝幸	10番	馬場千恵子
11番	岡田康則	12番	疋田俊文

欠席議員(なし)

地方自治法第121条の規定により出席した者

町長	森川喜之	副町長	佐藤壮浩
教育長	上村欣也	総務部長	小野雄一郎
福祉部長	浦達三	まちづくり推進部長	中島照仁
教育振興部長	中尾勝人	生活環境部長	森川泰典
政策調整課長	林嘉明	総務課長	西村直貴
財務課長	松本武彦	税務課長	佐藤愛
住民福祉課長	古谷真孝	子育て健康課長	谷田悦子
環境対策課長	内野悦規	住宅課長	岡田健太郎
観光振興課長	桐原麻以子	教育総務課長	川村大輔

危機管理課 植村 一之
長心得

会議に従事した事務局職員

局長 高根 亜紀 主 事 平井 貴之

開議 午前 9時30分

◎開議の宣告

○議長（疋田俊文） おはようございます。

ただいまの出席議員は12名で定足数に達しておりますので、令和7年第2回定例会を開会いたします。

本日の一般質問は録画配信を実施いたします。その際、傍聴者も撮影映像に入る場合がありますので、ご了承を願いたいと思います。

これより本日の会議を開きます。

◎一般質問

○議長（疋田俊文） 本日の日程は一般質問です。

各議員の持ち時間は30分となっております。5分前に声をかけさせていただきます。その後、30分過ぎて発言を続けた場合は、マイクのスイッチを切らせていただきます。

本日の一般質問は1番から5番までの方です。

それでは、質問を許します。

◇ 岡 田 康 則

○議長（疋田俊文） 1番目に、岡田康則議員、登壇の上、質問願います。

○11番（岡田康則） 議長。

○議長（疋田俊文） 岡田議員。

（11番 岡田康則 登壇）

○11番（岡田康則） 皆さん、おはようございます。

11番、岡田康則が河合町の安心・安全と、また教育の強い思いで一般質問をさせていただきます。

今6月議会では、各地で発生しております生活道路と通学路における交通事故などが多く見られます。2012年の亀岡市での暴走事故では、計10人の方が被害に遭われ、3人の方がお亡くなりになりました。この事件から全国的に通学路の整備が顕著に行われるようになりました。町内通学路では、グリーンの路側帯が少しずつではありますが、施工されるようになってきました。また、今議会では防犯カメラの整備状況などをお聞きしたいと思います。防犯カメラ、読んで字のごとく犯罪を防ぐです。犯罪の抑止力になると思います。先日の児童を巻き込んだ酒気帯び運転でのRV車が現場を去りました。しかし、後日、防犯カメラの画像からこの犯人が検挙にも至りました。昨年度から各大字に補助金での設置状況と、それまでに大字自ら設置された防犯カメラがあるとも聞いておりますので、そこらあたりを教えてください。

春の機構改革では、安心・安全係から危機管理課にもなりました。このことは、地域の方からも町の姿勢がよく分かった、よかったよねというようなことも聞かせていただきました。また、町中で防犯カメラだらけというもの、またプライバシーの観点からも非常にいただけないかとも思います。PTA、自治会長会などから、危険または安全が担保できないような場所があれば、速やかにまた設置できればとも思っております。財政厳しい河合町ですが、今トレンドでありますふるさと納税から使ってもらえれば、すごく分かりやすいのではないかと思います。また、町で納税されています軽自動車税、そういうのも使えばいいのかなとか私自身思っております。

再質問は自席で行います。よろしくお願いたします。

○総務部長（小野雄一郎） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 小野総務部長。

○総務部長（小野雄一郎） 現在、町が設置している防犯カメラにつきましては、町の公共施設及び町内の各駅前設置しており、そのうち通学路につきましては、役場庁舎前と池部駅前、大輪田駅前の3か所に設置している状況でございます。

また、各地域の危険箇所への対策として、令和6年度より犯罪に対する抑止力及び治安維持の促進を図り、安全で安心なまちづくりを目的として各大字・自治会が行う防犯上危険な場所への防犯カメラの設置に対し補助金の交付を実施しており、補助事業を通じまして地域の安全確保の推進を図っているところでございます。

防犯カメラにつきましては、犯罪発生の抑止そして犯罪発生時における犯人の早期検挙に効果があり、町内の通学路及び各地域の危険と思われる箇所に設置することで、交通事故の

現場映像や不審者等の映像を記録し、事件・事故の早期解決に期待できるところではございますが、事件・事故そのものを防ぐことはできませんので、小学校の登下校時の立哨活動や地域の見守り活動、また町と警察、大字・自治会が連携を図ることによりまして町の安全確保に努めてまいりたいと考えておるところでございます。

以上でございます。

○11番（岡田康則） 議長。

○議長（疋田俊文） 岡田議員。

○11番（岡田康則） 小野部長言うていただいて、確かにそうでありますよねというところで、町でも見守り活動、今、最後のほうに言われましたように、下校時間に散歩していただく、犬を連れての散歩とかそこらも、そういうふうなことも広報のほうでも言うていただければ、そういうふうに事故が防げる、また連れ去り事故とか、平群でも非常に悲しい事件がありました。そういうことも防げるのかなとか思ったりもしております。

そこで、今ちょっと登壇のほうで言わせていただきました防犯カメラなんですけれども、要するに防犯カメラだらけというのも非常にしんどい話になのかな、やはりプライバシー保護という面で、よい点もあれば、またこれはいかがなものかなというところもあるのかなと、こう思います。その辺、そのあたりがちょっと分かりませんので、担当課のほうで何かそういうふうな、これはちょっとしんどいんですねというようなこと、率直にお聞かせいただければありがたいのかなと思います。

○危機管理課長心得（植村一之） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 危機管理課長。

○危機管理課長心得（植村一之） すみません、ただいまの質問にお答えさせていただきます。

防犯カメラに関しましては、私ども危機管理課としまして懸念する部分はプライバシーの確保かなと思っております。先ほど議員がおっしゃられましたとおり、防犯カメラだらけというのも非常に日常生活の上で、例えば朝のごみ出しであったりというのを常に撮られているという不安がつくものでございます。その点で、どこに設置して、仮にそこに家屋等が映る場合は、その方の同意をいただいて設置する。そして、その地域の方々も皆さんが理解していただくことが一番大事かなと思っております。

以上でございます。

○11番（岡田康則） 議長。

○議長（疋田俊文） 岡田議員。

○11番（岡田康則） 危機管理課長、デビューおめでとうございます。

今言われたように、その丁寧な説明というところ辺を、その映り込むであろうと思われるお家に対してしていかなければいけないと思ったりもします。なかなかスムーズにいったり、しんどかったりするのかなとか思うんですけども、そこは子供たち、また弱者の方を守るという視点、また、それと交通事故の抑止、犯罪の抑止というところ辺で防犯カメラを設置していただきたいなと思います。

今年度も自治会、総代・自治会向けだと思うんです。各自治会向けだと思うんですけども、予算がちょっと国のほうからも出ていたりしたと思います。それが、半分は自治会負担で半分は町の負担というところなのかなと思いますけれども、その交付の金額、そして今これで令和7年度であればこれだけ予算がついて、これだけ設置しようとしている予定とかあれば、分かれば教えていただきたいと思います。

○危機管理課長心得（植村一之） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 植村危機管理課長。

○危機管理課長心得（植村一之） ただいまの質問にお答えさせていただきます。

まず、自治会等が設置する防犯カメラの補助につきまして、補助額といたしましては設置費の2分の1でございます。上限がありまして、上限は20万円となっております。ですので、自治会等が設置する設置費が例えば40万円であれば上限20万円、30万円であれば15万円という形になっております。予算に関しましては、令和7年度は昨年と同額で60万円となっております。

以上でございます。

○11番（岡田康則） 議長。

○議長（疋田俊文） 岡田議員。

○11番（岡田康則） 60万円が、今、自治会のほうについていますよというところで、では、60万円ということは3件なんですよね。なかなかその3件で、ほか自治会からの要望があれば抽せんになるのか、その辺が非常に悩ましいのかなとか思ったりもしますねんけどもね、そこらあたりのどういうふうな条件で、ここつなあかんとか、それ危険かと思われる場所からいくのか、それともここはイの一番に言っていたからつけるのか、ちょっとそこら、そのあたりはどうなんでしょうか。公平でいかないかんのは分かるんですけども、なかなか60万円という限られた財源だと思いますねんけども、教えてください。

○危機管理課長心得（植村一之） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 危機管理課長。

○危機管理課長心得（植村一之） ただいまの質問にお答えさせていただきます。

予算が60万円ですので、多数の申請があった場合、どうしてもその予算上足りないというケースが発生する可能性があります。私どもとしましては、限りある財源を使いまして、申請いただいたもの全てするのが本意ではあるんですけども、仮にそうできない場合は、自治会の費用で設置していただくカメラですので、自治会の総会にかけていただいて、その議事録をつけていただくというのが申請の条件となっております。その総会をにかけていただいた日付が例えば早かったり遅かったりということで、最終的にはその優先順位をつけさせていただいています。この日付に関しましては、いかに地域の住民合意が早くそこで合意いただいたかという、そこで早めに設置していく必要があるということで、その総会の日付で順番をつけさせていただいています。

以上でございます。

○11番（岡田康則） 議長。

○議長（疋田俊文） 岡田議員。

○11番（岡田康則） そこら辺が、非常にまだ分かりやすい説明やったのかなと思います。

ちょっとその辺あたり私も分かりませんでしたので、どんな順番でつけてはるのかなとかいうのもちょっと疑問に思っていましたけれども、よく分かりました。

それで限られた財源ということでは言われたんですけども、先ほどちょっと登壇のところでも言わせてもろたように、ふるさと納税が令和6年度で600、700集まったのかな。今年度が1,000万円ぐらい予定されているのかなとか思うんです。数字がちょっと私あやふやで申し訳ないんですけども、そのあたりかなとか思うんですけども、そこで、そのふるさと納税をそういうふうな、少しでもそういうふうな防犯カメラに使いましてよというふうなことがあれば、町内でもやはりよその土地でふるさと納税されている方も河合町でも、やっぱり河合町でしょうかというような雰囲気もなってくるのかなと、私自身はもうそういうふうにもうせなあかんなど思っているんですけども、そういうふうなふるさと納税の使い道で防犯カメラ、安心・安全というところ辺に使っていただければありがたいのかなとか思うんですけども、そのあたりいかがでしょうか。

○政策調整課長（林 嘉明） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 林課長。

○政策調整課長（林 嘉明） ただいまの質問にお答えさせていただきます。

ふるさと納税に関しましては、ほか自治体でございましては防犯カメラに使用されているというところはございます。河合町の使用の用途としましても、防犯カメラに使うことは可能かと考えております。

以上です。

○11番（岡田康則） 議長。

○議長（疋田俊文） 岡田議員。

○11番（岡田康則） 林課長もデビューおめでとうございます。

今言われたように、ほか他市他町でもそういうふうな事例があるということで、そうしたら、どんどん、どんどんと言ったらおかしいんですけども、そのうちの2割でも安心・安全防犯カメラ等々に使っていただければ、住みよいまち、安心・安全なまち河合町が少しずつでもできていくのかなとか思うんですけども、町長、私のこの考えというところ辺で町長賛同いただけたら、よっしゃ、やろうやないかというふうに言うていただければ、今、傍聴の方もよっしゃというふうになるのかなとか思ったりもするんですけども、町長、お考えをお聞かせ願えますか。

○町長（森川喜之） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 森川町長。

○町長（森川喜之） ふるさと納税の使い道ということでご返答させていただきます。

今年度のふるさと納税については、旧年度と比較して3倍になりました。本当にこの他町からの納税、また増えたということで、大変ありがたく思っております。このふるさと納税の寄附金については、全額が町の事業に充てることができるものではございません。ふるさと納税による寄附が歳入となる一方で、返礼品でふるさと納税の返礼品の額がまた50%の経費が要るということで、歳入歳出となるように考えております。ただ、河合町の安全については、重要な案件であることは承知しておりますので、このような状況を踏まえて、ふるさと納税による寄附の使途については慎重に配分を決めていきたいと考えております。

よろしく申し上げます。

○11番（岡田康則） 議長。

○議長（疋田俊文） 岡田議員。

○11番（岡田康則） 確かに1,000万円集まったからいうて、1,000万円使えるわけじゃなしに、魅力がある商品500万円分は返礼として、残りアバウトですけども500万円あれば使えと、そのうちの例え1割でも、1割でしたら50万円ですか、その50万円を今ついている防

犯カメラに対して60万円ですか、それに足したら110万円になりますやんか。そんな形で使っていて、また広報紙のほうに、ここにふるさと納税を使ってつけましたとか、そんな話もしていければ町民の方たちも安心やしというところですよ。今、インターネットで町の広報紙も見られますので、そういうふうな形で町外の方も見ていただけるのかなとか思ったりもします。

今一緒にお伺いすればよかったんですけども、市町村の軽自動車税ですよ、そういうのもそういうふうな先行事例、そういうふうに使っているでというようなところがあれば、今これを使ったらどうですかじゃなしに、先行事例があれば教えてほしいな。それで、今後そういうふうな感じで軽自動車税、河合町、安心・安全で使うてんでというふうなことが広まればまたいいのかなとか思ったりするんですけども、ちょっと難しいのかもしれないけれども、どうでしょうか。

○総務部長（小野雄一郎） 議長。

○議長（疋田俊文） 小野総務部長。

○総務部長（小野雄一郎） ご質問の軽自動車税を防犯カメラを設置する財源に充てている例というのは、承知していないところなのでございますが、そもそも軽自動車税は目的税ではございませんので、町の様々な事業の財源として広く充当されているという現状がございます。そのことから、ほかの事業への影響等をしっかりと踏まえた上で検討してまいりたいと考えております。

○11番（岡田康則） 議長。

○議長（疋田俊文） 岡田議員。

○11番（岡田康則） 今、部長おっしゃっていただいたように、様々に使えるというところら辺で、河合町がそういうふうな形ですれば、また注目もされていいのかなとか思ったりするんですけども、それは森川町長の胸一つなのかなとか思ったりもしますし、それで安心・安全、今、森川町長も企業誘致というところをお話しすると、したいんや、したいんやというお話も聞いておりますし、実際にそういうふうな委員会も立ち上げてやるということも分かっておるんですけども、なかなか企業誘致も厳しいと思うんです。ですから、もうそれは町有地であればすぐにできるやろけれども、町有地ではありませんので、今、やはりこういうふうな安心・安全というところに力を入れるということで、今、河合町民が1万6,000人大体おられるということで、その全部が全部じゃないんですけども、そのうちの例え1割、2割でも広報として町民、河合町に住んでんねんけども、ええとこやねん、こ

ういうふうに安心・安全やねんというところで、広報として言っていただければ、少しずつでも町の財政に寄与できていくんじゃないかなというところで、そういうところでもっともっと売り出していきたいのかなとか思ったりするんですけども、その辺どうでしょうか、お聞かせ願えますか、どなたでも。

○町長（森川喜之） 議長。

○議長（疋田俊文） 森川町長。

○町長（森川喜之） 岡田議員のご質問にお答えします。

ふるさと納税の使い道、配分については、しっかりと議論しながらやっていくということであり、防犯カメラについては、今後、各自治会またこのプライバシーに係る問題や地域の住民の方の理解も必要になってくると思っております。そういう意味で、今後、この設置基数が、設置要望が多岐にわたってくれば、また様々な配分を考えて早急に考えて取り組んでいかなければいけないと、このように思っております。町民の皆さん、また子供の安心・安全のためにはしっかりと防犯を、犯罪を抑止する、また、今、議員がおっしゃったように、このカメラで様々な事件も解決をされているということは承知しております。事件の起こる前に未然に防ぐために防犯カメラは本当に必要だとも思いますけれども、様々な面から検討させていただいて、また、住民の皆さんのご理解が一番だと思っておりますので、今後、またしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。よろしく。

○11番（岡田康則） 議長。

○議長（疋田俊文） 岡田議員。

○11番（岡田康則） 町長のお考えはよう分かりました。もう一個言うてたように、軽自動車税もいい方向に使えれば、また河合町はこんなことをしているやんか、軽自動車税こういうふうに使ったら有意義やなというふうで、全部が全部じゃないですよ。防犯カメラに限らず、安心・安全というところに、グリーンの路側帯にしてもそういうふうにやっていただければ、目に見えるというところをやっていただければ、新住民の少しずつでも増えていくんじゃないかなとか思ったりするんですよ。本当に1つの家族が住んでいただければ、微力かもしれませんがねん、微力と言ったら怒られるかもしれませんがけれども、やはりそういうふうには税金も入ってきますし、町も活性化していくと思います。今やはりそういうふうには町のちょうど中央にスーパーもできたり、お菓子屋さんもできたりして行って、今がチャンスかなとか思うんですよ、こういうふうなことを打ち出していくのにも思ったりもしますので、ちょっとそこら、もう一回すみませんけど、森川町長、何か軽自動車税というところを

もええやないかというふうに考えていただける、幹部会で考えていただけるのであれば、あかんかったらあかんで、しゃあないですよ。そやけど、そこらがあればいいのかなとかと、何でしたら、小野部長でもよろしく願いいたします。

○総務部長（小野雄一郎） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 小野総務部長。

○総務部長（小野雄一郎） 事務レベルの話として、私からお答えさせていただきます。

先ほど答弁いたしましたとおり、軽自動車税の活用につきましてもきちんと検討した上でどうあるべきか、そしてまた、そういった取組が町の内外に発信することによりまして、例えば町外におきましては、町の魅力を伝えるようなことにつながると思いますし、実際に町の内部に発信することによって、現在お住まいの方の町の取組にご理解いただきまして、一定の安心につながるのではないかなと考えるところでございますので、議員のご質問を参考にさせていただきます取り組んでまいりたいと考えておる所存でございます。

○11番（岡田康則） 議長。

○議長（疋田俊文） 岡田議員。

○11番（岡田康則） 今いろいろ言いましたけれども、言うたことを本当に理事者の方、特に担当課の方がまたしんどい話になっているのかもしれませんがねんけれども、その防犯カメラのそういうプライバシーとかそこら、いろいろあるかと思います。やはりここは安全やと思っても、つけたいと思っても、そこのお家がやっぱり嫌ですねんと言われたら、なかなかしんどいかなと思いますし、そこらを本当に丁寧な説明がこれからしていただかないといけないと思います。まだ予算ついているのであれば、早いことほかの事業に対しても安心・安全というところは特に私いつも言うているんですけれども、ついでいたら早いこと施工もしていただきたいかなとか思ったりもしますので、よろしく願いいたします。

いろいろ言いましたけれども、とにかく新しい住民、新住民の方、本当にどこの市町村も人口が減っていますねんけれども、ちょっと変わったことを打ち出していかんと、河合町に住んでいただけないのかなとか思ったりもしますので、そこらあたりをちょっと思いまして、私の一般質問でありました。

これで私の質問を終わります。

○議長（疋田俊文） これにて岡田康則議員の質問を終結いたします。

◇ 中山義英

○議長（疋田俊文） 2番目に、中山義英議員、登壇の上、質問願います。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

（5番 中山義英 登壇）

○5番（中山義英） おはようございます。議席番号5番、中山義英。

それでは、議長の許可を得て、ただいまより一般質問通告書に従って一般質問を行います。
質問事項1、空家問題について。

少子高齢化の振興やライフスタイルの変化に伴い、全国的にも空き家は増加の一途をたどっています。空き家の増加は、治安や景観の悪化など、地域に悪影響を与えるため、早急な対策が求められます。空家等対策の推進に関する特別措置法の制定を受けて、河合町では令和3年12月に河合町空家等対策の推進に関する条例を制定し、空き家対策の取組が行われています。4点質問します。

1、河合町空家等対策計画の中では、令和2年度において空き家と思われる家屋が町全体で459戸あり、そのうち特定空家と思われる空き家は8戸、管理不全空家は21戸、残り430戸については近隣に影響のない空き家もしくは管理されている空き家と記載されていますが、令和6年度末の空き家の状況は、それぞれどのようになっていますか。

2、現在、河合町が進めている空き家解消に向けた取組について。

3、河合町空家等対策計画に基づいて、空き家対策を進めていくに当たって得られた効果や課題について。

4、今後、どのような取組を計画されていますか。

以上で登壇しての質問を終え、あとの質問は自席にて行います。

○生活環境部次長（森川泰典） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 森川生活環境次長。

○生活環境部次長（森川泰典） それでは、中山議員の一般質問4点について回答させていただきます。

まず1点目、令和6年度末の空き家の状況について回答させていただきます。

令和6年度末の調査では、全体で377戸になります。うち特定空家及び管理不全空家の認定についてはゼロ戸になっております。

2点目、河合町が進めている空き家解消に向けた取組について回答させていただきます。

空き家の所有者及び管理者から、例えば売買もしくは賃貸といった希望の相談があった場合は、流通関連も含む総合的な空き家相談に対応するNPO法人空き家コンシェルジュや、令和5年に空き家等の売却に関する相談支援として連携協定を締結した中古住宅の流通業者の株式会社カチタスにつなぐ形ができています。さらに、令和4年度から危険空家等除却費補助及び住宅診断補助事業も展開し、空き家解消に向けて取り組んでおります。

3点目、河合町空家等対策計画策定から3年たつが、得られた効果や課題について回答させていただきます。

担当職員による空き家等の外観調査及び戸数の確認や空き家等の所有者及び管理者に対する利活用意向調査結果から、当該対象者の現状や抱えている悩みについても確認することができております。一方で、その悩みに円滑に解決できるよう行政単体として対応できない内容について、空き家等の問題に精通する関係機関等と連携できる仕組みづくりが課題として浮き彫りとなっております。

4点目、今後どのような取組を計画しているのかについて回答させていただきます。

まずは、空き家を解消させるための流通や利活用を促進する必要があり、そのためには空き家全般のワンストップ相談窓口の構築が急務と認識しております。この仕組みが整えば、意向調査結果にもありましたが、管理ができない空き家を町に寄附をしたり、またこんな活用したいという声に対しまして円滑に対応できるのではと考えております。

以上です。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） ありがとうございます。

今回空き家問題をテーマにした背景には、空き家問題は早い段階から積極的に取り組んでいかないと人口減少問題だけでなく、町の魅力低下にも大きく関わってくる重要な課題と考えるためです。例えば空き家が増えるということは、その地域に住む人が減るだけでなく、地域のコミュニケーションやにぎわいが低下し、さらにスーパーや医療機関など住民生活に欠かせない施設の撤退にまで影響が及ぶと町全体の魅力は一層低下します。

では、質問します。

令和6年度末すなわち今年の3月末時点で河合町の空き家は377戸で、令和2年度に比べると82戸減少している点は、ある意味、喜ばしいことですが、空き家が減った主な原因につ

いてお答えください。

○生活環境部次長（森川泰典） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 令和2年と令和6年度調査で、82件減少しております。理由につきましては、解体及び新しく使用された結果により空き家等が減少しております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 空き家になってしまう原因というのは、これは様々あるんですけども、河合町の場合はどういったケースというのが一番多いですか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 空き家になった主な原因について利活用意向調査をさせていただいております。その結果ですけれども、大きな理由として、居住者さんの死亡、また施設への入所等をされた結果が多いことを確認しております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 空き家に関しては、いろいろな人から苦情や相談を受けますが、河合町が空き家のパトロール調査というのはどれぐらいの頻度で行っておられますか。

○議長（疋田俊文） 森川環境部次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 空き家パトロールですけれども、現在、住宅課空家対策係2名によりまして、年に一度現場確認及び外観調査を実施しております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 2名で年に1回ですね、調査は。そうしたら、その1回の調査で空き家の状況というのは全て把握して、その対策に十分取り組んでいると言えますか。

○生活環境部次長（森川泰典） 議長。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 年1回のパトロールになりますけれども、通報以外の空き家も含めて町全体の空き家の確認のためにパトロールを年1回しております。また、それ以外にも、当然住宅課のほうに寄せられた相談、管理不全の状態などの通報があった場合についても、その都度、担当職員で現場確認をしております。さらに、これまで住宅課から管理通

知を出した空き家についても、どういう状態なのかについて現場のほうの確認もしております。また、毎年総代・自治会長さんに協力していただいております空き家調査の結果についても、随時、現場確認及び現場調査を実施しており、空き家担当課としてできる限り迅速に空き家等の管理対策について対応しております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） そうしたら、町民や自治会などから空き家に関連した苦情等の通報件数、これ年間でどれぐらいありますか。また、通報の中身はどのようなものかお答えください。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 6年度の実績については35件になります。主な相談は、敷地内から生えている樹木、雑草の管理依頼、また家屋の一部を損傷している空き家についても相談されております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 担当課は、通報に対して迅速に対応されていると私は思っているんですけども、通報に対する年間の処理件数についてお答えください。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 令和6年度の実績になります。令和6年度で住宅課のほうに対応して管理が終わったのが合計15件、内訳として、草木については14件、家屋1件が解消されております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 空き家であっても一時的に空き家状態になっているだけで、所有者が維持管理を徹底していれば、主に防犯上の課題が残るだけです。しかし、管理不全空家と特定空家に対しては、建物の倒壊による危険、治安や景観の悪化など、周辺に与える悪影響から行政としては厳しい対応が求められます。

まず、管理不全空家に関して質問します。管理不全空家とは、1年以上誰も住んでいない状態の空き家で、適切な管理が行われておらず、このままの状態が続くと周辺環境に悪影響を与える可能性がある空き家のことを言います。管理不全空家に認定されるまでの一連の流れについてお答えください。

- 議長（疋田俊文） 森川次長。
- 生活環境部次長（森川泰典） 管理不全空家認定の一連の流れにつきましては、空き家の特措法及び条例に基づく空き家等に対する措置のフローに基づいて対応しております。
- 5番（中山義英） 議長。
- 議長（疋田俊文） 中山議員。
- 5番（中山義英） それは、現場を見に行っているんですか。
- 議長（疋田俊文） 森川次長。
- 生活環境部次長（森川泰典） 現場確認は当然させていただいております。また、所有者等の情報も確認した上で管理通知等を発送しております。
- 5番（中山義英） 議長。
- 議長（疋田俊文） 中山議員。
- 5番（中山義英） そうしたら、管理不全空家に認定された場合、所有者に対して河合町が行うべき行政指導、それと今まで行ってきた行政指導の件数についてお答えください。
- 議長（疋田俊文） 森川次長。
- 生活環境部次長（森川泰典） 管理不全の認定関係の流れです。
- まず、管理不全に対する措置といたしましては、適正な管理願通知、その後、対応されない場合については助言・指導、勧告、命令、氏名等の公表があります。令和4年2月以降、河合町におきまして管理不全空家に認定した件数については1戸になります。なお、その1戸につきましては、最終的に氏名等の公表まで措置しております。
- 5番（中山義英） 議長。
- 議長（疋田俊文） 中山議員。
- 5番（中山義英） 僕が質問している内容と違うんです。指導、勧告、命令、公表、そういうのをやってこられたと思うんですが、その件数についてお答えくださいという質問です。
- 議長（疋田俊文） 森川生活環境部次長。
- 生活環境部次長（森川泰典） すみません、1件になります。
- （「1件」と言う者あり）
- 生活環境部次長（森川泰典） 1件です。
- 5番（中山義英） 議長。
- 議長（疋田俊文） 中山議員。
- 5番（中山義英） 今の数字だけ聞いて、管理不全空家の取組を評価するのは難しいですけ

れども、町として1件というこれ、取組をどのように評価されていますか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 件数について多いか少ないかの判断は難しいと思います。今後は、今現在、河合町空家等対策協議会におきましてお諮りしている管理不全空家等判断基準指標、評価指標等が確定しましたら、その判断基準に基づき調査を行い、適正に対応してまいります。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） もうこれ聞いても無駄かもしれませんが、町からも指導、勧告、命令に従わず公表に至っても、なお改善しない所有者に対して条例に基づいて5万円以下の過料を科すことはできますが、今まで過料を科した件数というのがありますか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） これまで条例による過料についての請求件数はゼロ件になります。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 現在、町内に管理不全空家はゼロということですが、年に1回の空き家調査で管理不全空家を十分把握できているとは思えません。そのため、私としてはゼロという数字には疑問があります。

質問します。空き家の所有者によって甘い判断はされていませんか。管理不全空家は公平に判断されていますか。お答えください。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 現在、住宅課のほうで対応させてもらっていますけれども、町で作成した外観調査票に基づきまして職員が公道から目視で外観調査を行い、一定の評価をした上で判断しております。なお、今後、先ほど言いましたけれども、奈良県の判断基準指標を参考に河合町の判断基準を作成し、より客観性の制度を上げていく予定です。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 外からの目視だけでは判断にばらつきがあるように思います。

質問します。空き家の中から野生動物の鳴き声が聞こえる空き家はどのように扱われてい

ますか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 空き家等にすみ付く野生動物につきましては、判断基準指標、評価指標等の調査項目にはあります。なお、空き家等状態の確認については、要適正管理度及び周囲への影響の有無について調査を実施し、総合的に判断しております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 総合的に判断ということですが、判断はできていないように思います。人が住まず、野生動物のすみかになっている空き家は、普通で考えたら管理不全空家です。空き家調査の際には、できる限り空き家の周辺住民から情報も入手しながら、適正に管理不全空家の判断を行ってください。

続いて、特定空家に関して質問します。

特定空家とは、1年以上誰も住んでいない空き家で、管理などはほとんど行われておらず、そのまま放置しておくことで建物の倒壊などのリスクがあり、自治体からの指導に従わない場合、最終的に強制撤去も可能な状態の空き家のことをいいます。現在、河合町では特定空家もゼロということですが、こちら私の知る限りゼロではないように思います。特定空家に認定するまでの一連の流れについてお答えください。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 管理不全空家と同じように、空家特措法及び条例に係る空き家等に対する措置のフローに基づいて対応しております。まず、現場確認をさせていただきます。その後、家屋等の所有者を確認した上で管理通知を発送し、管理通知発送後も対応されない場合につきましては、空家等対策協議会で案件等の説明を行い、今後どうするかの対応について検討していただきます。なお、その場で立入調査についての有無も確認させていただいた上、立入調査を実施し、総合的に判断して特定空家と認定されれば、指導、勧告、助言、命令、最終的には行政代執行までするような対応を考えております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） そうした特定空家に認定された場合の河合町が行った行政指導の件数、それぞれお答えください。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） これまで河合町で特定空家に認定した件数は1件になります。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 1件ということで、そうしたら今後のことも含めて、特定空家の解体に関して質問します。

特定空家を解体する場合、河合町では一定の条件を満たせば50万円を上限として除却工事に要する経費の2分の1以内の額で除却費補助金が交付されています。今まで何人の人が補助金の交付を受けられましたか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） この制度につきましては、令和4年度から開始しております。令和4年、5年、6年度、交付件数は7件になります。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 先ほどの話で、特定空家は1件だけと言いながら、特定空家の解体が7件というのは、これなぜこんな違うんですか、数字。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） まず、危険空家除却につきましては、特定空家と認定はしておりません。あくまで不良住宅判定という調査をさせていただきまして、倒壊等するおそれがある家屋が対象になります。なお、特定空家と認定され、命令まで措置させた場合につきまして、この危険空家の解体補助の活用はできないルールになっております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） そうしたら2点質問します。

まず1点目、特定空家の解体現場は、全て確認し、写真等で記録は残されていますか。

2点目、補助金の交付を受けられた7名の方、これ町税や上下水道料金等に滞納はありませんか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） まず、危険空家の解体補助につきましては、最終的に解体した現場の写真は押さえております。

あと、今回、危険空家の補助制度のルールといたしまして、町税及び下水道料金の滞納を

確認した上で、滞納がない方について申請する仕組みとなっております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 除却費補助金には町民の税金が使われているもので、交付に当たっては適正に審査した上で交付してください。

空き家をめぐる問題のほとんどは、所有者が悪で近隣住民は被害者という単純なものではありません。空き家問題は、所有者が自分の問題として解決すべき問題ですが、所有者自身も空き家の管理や活用方法について問題を抱えていることが多いです。

質問します。河合町が行っている空き家対策の取組の中で、空き家バンクとはどういうものか簡単に説明してください。

○生活環境部次長（森川泰典） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 森川環境部次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 空き家バンクについて説明させていただきます。

空き家の解消などの目的に、空き家の賃貸・売却を希望する所有者及び管理者から提供された情報集約し、空き家を利用活用したい方とのマッチングできるような仕組みになります。主に、地方自治体が窓口となっており、空き家物件を掲載しているウェブサイトになります。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） では、空き家バンクの委託先と、空き家バンクへの登録件数、最初に言われたと思うんですけども、再度お答えください。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 空き家バンクの運営委託先といたしましては、NPO法人非特定営利団体空き家コンシェルジュに委託しております。なお、これまで空き家バンクに登録された累計は2件になります。

○5番（中山義英） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） では、NPO法人コンシェルジュへの委託業務の内容と、委託したことでのどのような効果があったのかお答えください。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 空き家コンシェルジュでの業務内容の説明をさせていただきます。

ます。

まず、空き家等の所有者及び管理者から空き家を使用したい希望者からの相談窓口として委託しております。相談窓口として委託しております。

次に、空き家等の流通、利活用の促進を進めるための空き家バンクの登録関係についても委託しております。また、河合町との共催で年1回ですが、空き家セミナー相談会も開催しております。さらに、空き家等の所有者からの空き家の売買について、これまで相談されてきました。結果的に3件の空き家が売買されております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） そうしたら、セミナーや空き家相談会、これの参加者の人数について年度ごとの数字をお答えください。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 相談会は、空き家等が抱える様々な問題について所有者及び管理者に対してコンシェルジュさんの相談員が話を聞き取り、問題解決に向けて適切なアドバイスを行っていただいております。なお、家屋等の現場確認が必要であると判断された場合、後日、担当職員により現場確認を実施されております。

令和2年度、コロナの関係でセミナーはありませんでしたが、電話相談会3件。令和3年度、コロナでセミナーは中止、ただ、電話相談会は1件。令和4年度、セミナーの参加者14名、11組、相談会参加者5名、4組。令和5年度、セミナーへの参加者は7名、4組、相談会参加者は4名、2組。令和6年度、セミナー参加者1名、1組で、相談会参加はゼロになっております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 説明いただいて、河合町全体の空き家の数からいうと、空き家バンクの登録件数というのは1%にも達していない上に、空き家相談会やセミナーの参加者数も少ないですけれども、この原因というのは何だと思われませんか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） まず、空き家バンクについてですけれども、当然空き家の状況、状態等を含めて利活用できるかできないかを判断された上での空き家バンクの登録になりますので、若干、2件しか今なっておりません。あと、相談会への参加者が少ない点につ

いてですけれども、広報「かわい」や総代・自治会長会等でも周知しておりますが、空き家問題で困っている方への直接的なリーチも必要と考えております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 周知方法に工夫が必要と考えます。私としては、NPO法人コンシェルジュだけに頼っていても、空き家の解消には大きな効果が望めるとは思いません。河合町独自の空き家バンクを立ち上げるべきです。

質問します、2点。

1点目、未登記や違反建築物の空き家、これは空き家バンクに登録できますか。

2点目、現在、空き家の中に未登記や違反建築物の空き家は何件ありますか、お答えください。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 未登記等の家屋について、空き家バンクに登録できるかについて回答させていただきます。

空き家コンシェルジュでは、未登記家屋でありましても、所有者、管理者等が特定された場合につきまして、一定の条件をクリアすれば登録は可能と聞いております。なお、違反建築物等の数については、住宅課で把握はしておりません。

○5番（中山義英） 議長、未登記の件数、何件あるのかという質問に答えないんですけれども。

○生活環境部次長（森川泰典） すみません、未登記の家屋の数値は今つかんでおりませんので、また後日報告させてもらいます。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） コンシェルジュが未登記や違反建築物できる言うけれども、誰が買いますか、未登記や違反建築物。よくそんな答え返ってきて、黙っていますね。もう空き家バンクにも登録できない未登記や違反建築物の空き家に対しては、そうしたら町の誰がどのように対応されているんですか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） どうしようもない空き家について、どう対応しているのかという回答させていただきます。

行政のみだけでは対応し切れない問題、範囲でありますので、個別のケースにより対応方法が変わる可能性がありますので、各種専門家の方々に相談をし、協議した上で対応していきたいというふうに思っております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 未登記や違反建築物の空き家は、年数がたてばたつほど一筋縄では解決できない大きな課題となります。今後は、空き家バンクに登録できない空き家は、町が主体となって空き家の活用方針を検討していく必要があると考えますが、町の見解をお答えください。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 住宅課といたしましても、住宅課の職員だけでは対応できない案件等もありますので、各種専門家の協力をいただきながら、ワンストップで相談窓口で対応できるプラットフォームについて必要ということで認識して動いております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 河合町では、そうしたら、NPOコンシェルジュ以外に株式会社カチタスとも空き家対策事業に関する連携協定を締結されていますが、こちらの企業はどのような活動をされていますか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） まず、カチタスさんとの連携方法ですけれども、空き家の所有者及び管理者さんから売りたい、貸したいというふうな相談があった場合、まず、コンシェルジュさんとカチタスのパンフレットを送らせてもらいます。なお、所有者さん等で売る方向で検討されている場合は、カチタスにつなぐという形で同意書を頂き、家屋等の情報をカチタスに提供しております。一応、5年4月からカチタスさんと連携協定を結んでおりますが、これまで販売された実績についてはないことです。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 今の話を聞いている限りでは、単なる不動産活動だけですね、カチタスというのは。

では、続いて、河合町が平成26年からパナソニックホームズ株式会社と連携して取り組ん

でおられる住宅診断サービスについて質問します。住宅診断サービスの内容について簡単に説明してください。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 住宅診断ですけれども、先ほど議員おっしゃったパナソニックさんとの連携の中で生まれてきた仕組みになっております。まず、町内で空き家となっている一戸建ての住宅もしくは居住中の住宅で、築20年を超える戸建て住宅が調査対象になります。基本的に専門家の調査員によりまして、室内・室外等々の各種項目に基づいた調査をされます。その調査結果につきましては、パナソニックさんのほうから申請者の方に説明されて、こういうリフォーム等々の処理が必要だということも報告をされております。なお、実績ですけれども、令和2年度は5件、令和3年度が3件、令和4年度4件、令和5年度3件、令和6年度5件になっております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） これは無料ですか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） この調査費用については全て町が負担しておりまして、個人さんからの負担はゼロになっております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 住宅診断サービスというのは、簡単に言うと、人間でいうと人間ドックのようなもので、この制度は空き家になってからではなく、なる前の対策として一番有効な方法と考えます。しかし、河合町ではこの制度があまり生かされていないように感じます。住宅診断サービスを受けて悪いところを修繕すれば、現在住んでいる人も安心して暮らせる上に、売却する場合、比較的早い段階で買手が見つかると考えます。しかし、先ほどの話を聞く中では、申込み枠というの、これ少な過ぎませんか。どう思われていますか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） これまで予定件数でも5件させてもらっております。当然年度ごとにばらつきがありますけれども、申込みは5件以上ある場合もありますので、今後、予算要望等を含めて5件をどうするのか、内部で検討していきたいというふうに思っております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） これ副町長に質問します。このサービスは、ほかの自治体がまねをしたくても、住宅メーカーの協力がなければできません。住宅診断サービスに関する住民の認知度というのはかなり低いので、年に数回広報紙やホームページに載せるとか、固定資産税の納付書の中にチラシを入れるとか、河合町はもっと工夫をしてこのサービスを広めるべきと考えます。河合町の考えをお答えください。

○副町長（佐藤壮浩） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 副町長。

○副町長（佐藤壮浩） ただいまのご質問でございますが、住宅診断サービスについて周知をもっと広めるような手段について、議員からご提案いただいたものと考えております。

議員お述べのように、広報「かわい」あるいはほかの我々のほうで考えている内容といたしましては、総代・自治会長会でのご案内ですとかSNSでの活用の情報発信等も、また今後積極的に推進していきたいと考えておるところでございます。

以上でございます。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） これ納税書の納付の中に入れるのが一番早いです。そこら、ちょっと工夫してください。

それでは、令和5年12月に国会のほうで一部改正された空家等対策の推進に関する特別措置法、これの主な改正点4点ほどお答えください。

○議長（疋田俊文） 森川環境部次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 令和5年12月、一部改正がされました空き家の特措法、改正点4点説明させていただきます。

まず1点目、所有者等の義務強化が記載されております。現行の適切な管理の努力義務に加え、国・自治体の施策に協力する努力義務が追加されました。

2点目、空き家等の活用を拡大する目的で3点ほど書かれております。まず、空き家等活用促進区域の設定が可能になりました。2つ目、財産管理人による所有者不在の空き家等の処分が可能になりました。3つ目、支援法人制度の活用ということで、NPO法人、民間事業者の協力もいただけます。

3つ目、管理の確保といたしまして、特定空家化を未然に防止する管理、管理不全空家等に対する措置の追加がされました。2点目、所有者把握の円滑化といたしまして、市町村から電力会社等に個人情報等の情報提供を要請できるようになりました。

4つ目、特定空家等の除却代執行の円滑化、また相続財産管理の制度による空き家等の管理処分ができるようになりました。

以上です。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） これから説明するときにもうちょっとゆっくり、ちょっと理解しにくいんで。

改正点の中で私としては、主に3点が重要なと考えています。まず1点目、管理不全空家として勧告された段階で、住宅用地特例が解除できるようになったこと。2点目、空き家の活用に重点を置いた空家等活用促進区域の創設により、指定された区域内では空き家の建て替えの規制が合理化されたこと。3点目、相続放棄、所有者不明・不在の空き家への対応措置として、市区町村が裁判所に財産管理人の選任を請求し、空き家の修繕や処分が実施できるようになったこと、この3点かなと。

質問します。法律の一部改正に関して町はどのような印象を持たれていますか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 今回の法改正に基づき、議員がおっしゃっているような促進区域を指定すれば、接道関係の緩和等々ができる仕組みができております。また、相続財産管理人も活用できるということになっておりますので、今後、河合町として促進区域の設定については当然住宅課だけでは対応できない、まちづくりのほうにも関連することになりますので、今後、部署等々を調整しながらどういう方法がいいのか検討していきたいというふうに思っております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 私としては、これまでの空き家に関する特別措置法というのは、空き家の適正管理に重点が置かれている印象でしたが、今回の法改正では、より明確に活用が示され、行政としてできることが増えたように感じます。先ほど言われたようにもあるんですけども、もう一度、新たに取り組むべき課題、町としてどのようなことと認識されています

か。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） まず、先ほども言っています促進区域についてどう考えていくのか、区域の設定にもいろいろなルールがあるんですけども、どの方法が河合町にとって空き家を減らす区域の設定になるのか検討が必要というふうに思っております。また、今後、今、空き家が抱えているケースで心配ないんですけども、今後、相続人さんが相続放棄された空き家等についての対応、不在地主等々の空き家も出てくる可能性がありますので、財産管理人制度の活用についても検討していかなければならないというふうに思っております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） ありがとうございます。

空き家が増える原因の一つに、空き家の所有者には空き家のまま放置しておいたほうが固定資産税が安く済むという考え方があります。法律の一部改正により、特定空家だけでなく、管理不全空家に対しても所有者に勧告を行った段階で、土地に係る固定資産税の住宅用地特例が解除でき、結果として空き家所有者の固定資産税は増えることとなります。

2点質問します。

1点目、住宅用地特例を解除した場合、土地に係る固定資産税は今よりどれくらい上がりますか。

2点目、今まで勧告により住宅用地特例を解除した件数、何件ありますか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） まず、住宅用地の特例が解除された場合、固定資産税の額については4倍になると確認しております。なお、特定空家を認定した上で勧告した件数は1件になります。

○5番（中山義英） 1件。

議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 土地に係る固定資産税が今より4倍になるということは、仮に今まで10万円であった固定資産税が来年から毎年40万円になるということです。税金だけでも管理不全空家の所有者には相当な負担になると思います。しかし、今まで住宅用地特例を解除した

件数、これが1件というのは正直言って信じ難い数字です。

質問します。住宅用地特例の解除は、適正かつ公平に処理されていますか。問題の先送り、これがされていませんか、お答えください。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） まず、特定空家についての判断基準を作成しており、その項目に基づいて調査して認定する流れになっております。なお、管理不全空家につきましても、法改正後、奈良県が作られた基準書を参考に、今現在、河合町のほうで作成を進めております。その調査項目に基づいて職員が調査し、認定等を含めて対応することを予定しております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 先ほど初めのほうで言われた特定空家の解体に当たって7人の人が除却費補助金の交付を受けているとの答弁がありました。建物を解体して更地状態になれば、地方税法上、住宅用地特例は解除されますが、7人全員の住宅用地特例これは解除されていますか、お答えください。

○総務部長（小野雄一郎） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 小野総務部長。

○総務部長（小野雄一郎） 住宅用地特例のことです。少し私からお答えいたします。

今おっしゃった7件につきましては、住宅用地特例の解除というのは住宅課からの連絡を受けまして適切に処理させていただいておるところでございます。また、住宅次長の答弁の中にありました住宅用地特例を解除することによる影響、4倍と申しておりましたが、本来200平米以下の住宅用地であれば6分の1という軽減を図っております。本来ですと6倍以上、6倍増加するということになるんですけれども、その激変を緩和するための措置といたしまして負担水準という制度がございまして、実例を見ますと、4倍程度ということになっておるところでございます。

以上でございます。

○5番（中山義英） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） よく勉強されています。そのとおりです。それで、住宅用地特例を全部

外した、ないということですが、これは後で調べたら簡単に分かりますので、取りあえず適正かつ公平に処理されていると、一旦は判断しておきます。

では、河合町内の空き家の中で所有者不明の空き家は何件ありますか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） ゼロ件になります。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） そうしたら、ケースは少ないと思いますが、町内の空き家で相続人全員が相続放棄したことにより空き家になっているケース、これ何件ありますか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 2件になります。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） そうした2件のうちの1つと思いますが、数年前に税務課のほうで相続人全員が相続放棄された家屋があると聞いていますが、その家屋は現在どのようになっていますか。

○総務部長（小野雄一郎） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 小野部長。

○総務部長（小野雄一郎） 過去に税務課において債権回収のために相続人が全て相続放棄した案件について、相続財産管理人制度これを導入しようということで検討に入った実績ございます。これは、ちょっと細かい話になるんですけども、その建物といいますのが比較的築年数の浅い建物でございまして、相続財産管理人を選任いたしまして当該建物を処分した上で債権回収を図ろうと思ったものでございますが、その建物の立地とかそういう各接道とかを調査した結果、ちょっと売却の可能性が低いということが判明しましたので、現在のところ、導入を見送っている状況でございます。ただ、今後も町が債権を持つなど利害関係があるような物件につきましては、相続人が相続放棄した例などがあれば、この制度を活用して調査を行い、前向きに取り組んでまいりたいと考えておるところでございます。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） そうして言うてから2年ほどたつんですが、抵当権これを確認されてい

ますか。

○議長（疋田俊文） 小野部長。

○総務部長（小野雄一郎） 抵当権等も調査いたしまして、建物に関する謄本等も全て調査しております。

○5番（中山義英） ついているか、ついていないか。

○議長（疋田俊文） 小野部長。

○総務部長（小野雄一郎） すみません、調査の結果、今申し上げることができないんですけども、謄本等で抵当の有無というのを調査まではしておったと記憶しております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） もしその抵当権がついていたら、動きようがないと思います。それで、先ほどいろいろな建築の制限を言うておられたと思いますけれども、高田土木のほうで恐らく建築確認出しておれば何も問題ないと思います、河合町が判断しているんじゃないから。だから、一応これを進めていただきたい。ただ、これ奈良県下の自治体の中でも、この制度を活用している自治体というのは少ないです。だから、河合町初めて挑戦されても分からないところがあると思います。そうしたときは、言うていただいたら教えますので、取りあえず一度挑戦してみてください。

では、次に、法律の一部改正により新たに設けられた空家等活用促進区域について、具体的な内容の概略を簡単に説明してください。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） まず、促進区域ですけれども、今、法律上で例として挙げられている区域の設定ですけれども、まず1点目、中心市街地の活性化、2点目、移住定住促進、3点目、観光交流振興、4点目、生活便利・サービスの拡充、5点目、高齢者支援、6点目、子育て支援という区域が例として挙げられております。

促進区域を創設することによりまして、用途変更また建て替え等の促進をすることができるようになっております。主な内容といたしまして、まず1点目、接道規制の合理化、建築基準法による接道規制の合理化、これについては高田土木事務所との協議が必要になります。2点目、用途変更、これも同じく建築基準法に基づく用途変更の合理化、これも同じく高田土木事務所さんの同意が必要になります。3点目、都市計画法に基づきます市街化調整区域の空き家の用途変更。用途変更許可の際、空き家の活用が進むよう知事が配慮するとなって

おります。

なお、促進区域の設定につきましては、何回も申しましているように、まちづくり推進部との連携が必要になりますので、今後、検討を行っていきたいと思います。また、促進区域等を導入するに当たりまして、空き家等対策の変更及び空き家対策指針等の作成も必要になってきております。

以上です。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） いろいろ言うていただいて、難しいのはちょっと分かりにくいです。結局のところ、空家等活用促進区域この申請というのは、河合町が高田土木いわゆる奈良県に申請して、奈良県のほうが区域指定すると考えて間違いないですか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） その制度について緩和していただく許可をもらう形ですので、町が区域を指定する形になります。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） そうしたら、この区域指定に関して3点質問します。

一応区域を指定するのに何か特別な条件、これありますか。

そして2点目、河合町はこれを申請していく、区域を指定していく考えというのはありますか。

それと3点目、現在、奈良県下で指定されているところはありますか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 条件等、今、うちで確認させてもらっていますのは、区域の導入に当たりまして空家対策計画及び指針の作成、地元説明を含めてというふうに確認しております。

2点目、今後、河合町としてどうするのかということにつきましては、今年作成されるマスタープラン等の関係性もありますので、まちづくりと協議して対応を検討していきたいというふうに思っております。

3点目、奈良県内での活用区域の設定についてですけれども、住宅課で確認している情報ではゼロ件になります。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） この制度というのをうまく活用すれば、市街化調整区域内の空き家をカフェに変えたり、農家でない普通のサラリーマン家庭でも空き家を購入して建て替えもできます。なので、河合町にはこの制度の活用をぜひとも進めていただきたいと思います、町の見解をお答えください。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 先ほども申しましたとおり、住宅課だけでは、関連するまちづくりのほうとも協議しながら、どういう区域がいいのか、その辺を今後検討した上で対応、検討を進めたいというふうに思っております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 兵庫県、三重県内の市町村では既に区域指定が行われています。では、今後の空き家対策について質問します。

空き家の中で一番多いのは、空き家を売りにも出さず、貸出しにも出さず、定期的にも利用していない状態な空き家と考えます。そうした空き家の所有者に町としては、今後どのような対応を考えておられますか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 当然空き家をお持ちの方、いろいろな理由があると思われます。ただ、何回も言っているように、住宅課だけでは対応できない、し切れない内容についてもあるというふうに認識はしております。なお、その問題について、住宅課だけではなく空き家の関連する専門家等を組織した上で、空き家のワンストップ窓口を、空き家プラットフォームと呼んでいるんですけれども、それについて設置した上で、今後はそちらのほうで1件1件の状態及び理由等を確認しながら、利活用、売買等ができるような仕組みをつくりたいというふうに思っております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 空き家の所有者自身も管理や活用について問題を抱えていることは多いです。空き家相談窓口やセミナーの開催だけでなく、行政が主体となって空き家の所有者に活用方法を提案していくことも、これからの時代必要と考えます。今後は、団塊の世代も含

めた高齢者の増加に伴って、空き家も一気に増加することが予想されます。一般的に空き家予備軍と言われる65歳以上の高齢者しか住んでいない持家の数は把握されていますか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 今年、国勢調査が実施されますので、その調査内容にもありますので、回答結果を確認した上で把握させてもらいたいというふうに思っております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 空き家予備軍と言われる高齢者の中には、空き家になった場合どうしたらいいのか悩みを抱えている人は多数おられると思います。河合町としては、そういった方々への空き家相談会や空き家セミナーには、より一層力を入れてください。また、高齢者への住宅診断サービスも積極的に進めていただきたいと考えます。

続いて、空き家の活用に関して質問します。

全国においては空き家の活用事例というのは多数報告されています。例えば、空き家をデイサービスセンターなど介護福祉拠点としての活用、保育施設など地域福祉拠点としての活用、ひとり親家庭の住宅としての活用、地域住民のコミュニティスペースとしての活用、観光資源としての古民家の活用などがあります。

質問します。町のほうで何か検討されている活用事例があればお答えください。

○議長（疋田俊文） 森川生活環境部次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 現在、空き家等を利活用していただきたい等々の相談については受けているのも事実あります。ただ、これまでは畿央大学の学生さんを交えて空き家の使用方法等について提案していただいた内容はあります。ただ、実際最終的なその使用方法については進んでいないという状態です。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 私としては、地域ごとにその実情に合った活用方法を町が主体となって進めていただきたいと思います。

では、提案します。旧村は道路の道幅が狭く、車の対向も厳しいところが多くあります。そこで、道路沿いで買手が見つからない空き家があれば、町が買い取って建物を解体した上で、その場所を車の退避場所にしてもらうだけで車の往来がスムーズになるとは思います。町にはそういったことを検討する考えというのはありますか。

○まちづくり推進部長（中島照仁） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 中島部長。

○まちづくり推進部長（中島照仁） 私からお答えさせていただきます。

令和6年12月議会におきまして一般質問の際、道路の幅員等についてとして4メートル未満の狭い道路における緊急車両の通行対策に関しまして、中山議員より様々な貴重なご提案をいただいたところでございます。今回のご提案につきまして、町の限られた予算という問題等もございますけれども、空き家担当課とも連携いたしまして、状況に応じた対策手法の一つとして、今後の町の狭隘道路の解消対策の参考とさせていただきたいと考えます。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） よろしく申し上げます。

それでは、河合町では活用可能な空き家や所有者が活用の意向を示している空き家の数、これを把握されていますか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 今現在、空き家の所有者から活用されたいという、町のほうに活用してもらいたい等々の相談については、3件を把握しております。なお、意向調査で当然売りたい、貸したい等の回答もいただいておりますので、今具体的な数字をつかんでいないんですけれども、そういう調査では数は把握しております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） そうしたら、副町長に質問します。活用可能な空き家や所有者が活用の意向を示している空き家に対しては、河合町空家等対策協議会とは一線を画した町と専門家が集まった空き家の流通や利活用を推進するための新たなプラットフォームの構築が必要と考えます。河合町の考えをお答えください。

○副町長（佐藤壮浩） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 佐藤副町長。

○副町長（佐藤壮浩） ただいま中山議員から空き家対策に関するプラットフォームの構築のご提案をいただいたものと認識しております。

先ほどの森川次長の答弁でもございましたけれども、今後、行政だけでは対応できない、流通・利活用の促進も含めたワンストップの窓口といたしまして、例えばですけれども、司

法書士や建築に詳しい建築士の方など様々な専門家、できれば参画していただくような組織として空き家対策、空き家等の対策のプラットフォームの設置という検討を今後進めていきたいと考えているところでございます。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 最初のほうの答弁で言われたように、空き家問題には多様な専門分野の知識が求められる上に、空き家解消のためにはワンストップ相談窓口などの設置も必要と考えます。県内では生駒市が全国初となるオーダーメイドの空き家対策として、生駒市と各分野の専門家が集まって空き家の流通を促進するためのプラットフォームを構築し、個別の物件に応じた支援策を検討、実施されています。

質問します。空き家対策を進めていく上で、多くの自治体でよく言われている課題が人手不足です。役場の中で先ほど2名の方が空き家対策に従事されているということですが、2名だけですか。

○議長（疋田俊文） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 住宅課職員2名で空き家対策を担当しております。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） たったの2名では年1回しか空き家調査ができていないこともうなずけます。ただ、2名のままだと、今後、空き家が増えてくると全てのことに手が回らず、一方で担当職員にかかる負担は相当大きいと思います。

ここで副町長に質問します。私が河合町の空き家対策全般を見て特に感じたこと、この住宅課は空き家の管理業務への対応が精いっぱい、空き家の利活用まで手が回っていないことです。これからの時代、空き家の解消には利活用にも力を入れていく必要があります。しかし、管理業務が中心である住宅課に利活用の推進まで求めることには相当無理があります。そこで、住宅課以外に空き家の利活用を進める新たな組織の構築を検討する必要があると思いますが、新たな組織の構築に対する河合町のお考え、今年度中につくるのか、来年の4月からするのか、そこらあたり具体的な考えをお答えください。

○副町長（佐藤壮浩） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 佐藤副町長。

○副町長（佐藤壮浩） ただいまの議員からの新しい組織を役場内につくってはどうかという

ところでございましたけれども、現状、役場の組織編成ですとか職員の配置につきましては、職員数が現状定員の計画を下回っているような足元の状況の中、限られた人員等を効率的に配置し、役場全体の能力を最大限発揮できるように取り組んでいるところでございます。そのような状況の中、新しい組織をつくるということに関して、今すぐ即答できる状況にはございませんが、今後、各部署の重点課題への対応や業務量、どのようなことになっているかというのを評価した上で、適宜増員なり組織化あるいは逆に主要課題にめどがついたところにはスリム化を図るといったことは進めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員、4分ですのでお願いします。

○5番（中山義英） 分かりました。

なかなか空き家問題というのは待ってくれないので、もっと早く動いてほしいです、私としては。だから一日でも早く組織を立ち上げてもらいたいなど、2人ではきついですよ、これ空き家問題。空き家問題というのは、これは所有者が自分の問題として解決すべき問題ですが、それができずに社会問題になり、周辺住民からは何でもかんでも行政にその対応を求めるのが現状です。しかし、行政として空き家バンクや相談会、セミナーなどを開催しても空き家の解消には限界があります。私としては、空き家問題の解決には地域住民の力を借りることも解決手段の一つと考えます。

質問します。防災の際の共助、共に助けると書きますが、共助と同じように地域の空き家は自治会や町内会で地域の問題として捉え、困っている隣人を地域みんなで支え合うという仕組みづくりが必要と考えます。河合町は、そういった仕組みづくりをどのように考え、どのように関わっていけるのかお答えください。

○副町長（佐藤壮浩） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 副町長。

○副町長（佐藤壮浩） ただいま議員から空き家対策に向けての共助の精神の醸成とか涵養というところのご意見、ご質問かと受け止めております。

議員ご指摘いただいたとおりに、実際に河合町においても、空き家等の問題が所有者だけじゃなくて、地域住民の皆様の協力や支え合いがあって解決に向かうケースがある、あるいはあったというふうな認識はしてございます。行政といたしましては、自治会への加入促進あるいは町の行事やイベントを通じて地域交流できる機会を提供しておりますが、お述べの

共助の精神をまさに高めていくことが問題解決につながることを、可能性が高いと考えております。今後、空き家で困っておられる方あるいは将来空き家への不安をお持ちの方へのセミナーや啓発活動、空き家対策、先ほど述べたプラットフォームの設置に向けて進めていきまして、空き家の管理不全の改善や流通・利活用促進につきまして地域の皆さんと協働で進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○5番（中山義英） 議長。

○議長（疋田俊文） 中山議員。

○5番（中山義英） 河合町まちづくり自治基本条例でも協働のまちづくりという精神というのは書かれていますので、その辺にものっとった上で進めていただきたいと思います。空き家の増加というのは、人口減少だけでなく、町の魅力を大きく低下させる原因にもなります。空き家問題は自治体にとって重要な課題です。手遅れにならないよう、新たな組織を構築するなど、知恵を絞って少しでも空き家を減らす取組を進めていただきたいと思います。

以上で質問を終わります。

○議長（疋田俊文） これにて中山義英議員の質問を終結いたします。

暫時休憩します。

再開は1時10分から再開いたします。

休憩 午前10時57分

再開 午後 1時10分

○議長（疋田俊文） 再開いたします。

本日の一般質問は録画配信を実施いたします。その際、傍聴者も撮影映像に入りますので、ご了承願います。

◇ 杵本貴司

○議長（疋田俊文） 3番目に、杵本貴司議員、登壇の上、質問願います。

○1番（杵本貴司） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 杵本議員。

暫時休憩。

休憩 午後 1時11分

再開 午後 1時12分

○議長（疋田俊文） 再開いたします。

3番目に、杵本貴司議員、登壇の上、質問願います。

○1番（杵本貴司） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 杵本議員。

（1番 杵本貴司 登壇）

○1番（杵本貴司） 議席番号1番、杵本貴司、通告書に基づき一般質問させていただきます。

まず1つ目に、河合町における今後の観光戦略についてです。

昨年度新設しました観光振興課では、現在、廣瀬大社や古墳群など歴史的遺産、馬見丘陵公園などの観光資源を生かした観光PRを大阪・関西万博をはじめとした多くの機会を通じて行っておられます。

今後は、さらに周辺市町村と連携を密にしながら、誘客を受け入れる飲食店や商業施設の誘致など町が持つポテンシャルを最大限に活用した上で、観光戦略を推進していく必要があると感じております。河合町におけます今後の観光戦略についてお尋ねいたします。

そして、2点目、子育て世代から選ばれる河合町の教育ビジョンについて。

子供たちにとって地域の教育環境は大切で、地域や子供たちの未来に大きく関わります。人口減少の時代において、子育て世代の願いを丁寧に聞き、子供たちの安心・安全は当然のことながら、地域の特色を生かした魅力ある教育環境整備が求められております。

これからの子育て世代から選ばれる河合町の教育ビジョンについてお伺いいたします。

再質問は自席にて行います。よろしく申し上げます。

○まちづくり推進部長（中島照仁） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 中島まちづくり推進部長。

○まちづくり推進部長（中島照仁） 私より、1つ目、河合町における今後の観光戦略につい

てお答え申し上げます。

昨年度の課の新設からこれまで、既存の大型イベントや「御墳印帖」プロジェクト、大和の黒豆“KAWAI BLACK”、大塚山古墳群の調査などを中心に実施してまいりました。歴史的資源などを活用し、町に訪れていただくきっかけづくりとして継続している「御墳印帖」プロジェクトは、現在25種類の御墳印を発出しており、コンスタントにリピーターを獲得している状況でございます。

また、広域的な観光ルートについて、すむ・奈良・ほっかつ！推進協議会やWEST NARAにおいて、隣接町との連携ガイドツアーを構築しておりますが、現在、さらなる広域的なサイクリングルートの構築に向け、協議を進めているところでございます。

大和の黒豆“KAWAI BLACK”につきましても、即売会だけでなく、JAFや子ども会連合会のご協力もいただき、昨年度、初めての収穫体験を実施いたしまして、とても好評をいただいております。観光産業としての定着を目指し、今後も継続する予定でございます。

まだまだブラッシュアップしていける資源は文化や歴史に限らず、河合町にはたくさんございますので、飲食店や商業施設が出店したいと思えるまちづくりを住環境などにも配慮しながら、にぎわい創出に向けた取組を進めてまいりたいと考えております。

私より以上となります。

○教育振興部長（中尾勝人） 議長。

○議長（疋田俊文） 中尾教育振興部長。

○教育振興部長（中尾勝人） 私のほうから、2つ目、子育て世代から選ばれる河合町の教育ビジョンについてお答えさせていただきます。

教育ビジョンといたしましては、児童生徒一人一人が主体的に様々な課題に向き合い、他者と協働しながら各取組のさらなる質の向上を目指し、学校における日々の教育活動の活性化に取り組んでおります。取組内容といたしましては、ICT教育や外国語教育について、支援スタッフの充実やサポート体制を整え、英検など検定にチャレンジする子供たちを引き続き応援しています。

次に、特別支援教育関連といたしまして、特別な教育ニーズのある児童生徒の支援及び指導水準のアップと内容の充実を図るため、各小中学校に教育支援ソフトを導入し、活用しているところでございます。特別な教育ニーズのある児童生徒の支援及び指導方法の見立てや教材研究に極めて有益であり、指導力アップと個別のきめ細やかな対応を図っております。

次に、GIGAスクール構想事業では、小中学生が利用しているタブレット端末を更新い

たします。G I G Aスクール構想事業での一斉学習から個人に最適化された学習環境の充実、アクティブラーニングの推進等を引き続き進めてまいります。

最後に、教育環境整備といたしましては、今年度、各小学校体育館の空調整備工事、第2中学校外部改修工事の設計業務、第2小中学校給食棟新築工事基本実施設計業務を発注し、ハード面の整備について進めているところでございます。

また、通学路の安全対策といたしまして、河合町通学路安全推進会議を開催し、通学路の危険箇所を関係機関と共に合同点検を行い、点検後はハード面等の安全対策を講じ、子供たちの安心・安全に努めているところでございます。

以上でございます。

○1番（杵本貴司） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 杵本貴司議員。

○1番（杵本貴司） そうしましたら、1点目の河合町における今後の観光戦略について、再質問させていただきたいと思えます。

先ほど部長のほうからも各観光の社会資源について、いろいろPRの活動を積極的に行っているというふうなご回答をいただいておりますけれども、その中で観光を中心として、やはり河合町の人と人との連携、団体と団体との連携、そういった観光を中心に人がいっぱい集まってくるような環境づくりも観光を盛り上げていく一つの大切な要素と思うんですが、そういった連携とかネットワークづくりというところで、町の今の取組について例えば商工会との関係ですとか、西大和学園、畿央大学、様々なところと協定を結びながら活動もされておられると思うんですが、そういったことを実例も交えながらちょっとお話しいただけたらと思えます。

○観光振興課長（桐原麻以子） 議長。

○議長（疋田俊文） 桐原観光振興課長。

○観光振興課長（桐原麻以子） 観光振興課における連携関係の取組といたしましては、和歌山県すさみ町と河合町の商工会などで連携をしながら、ここまで進めてきております産直市がまずあります。また、昨年度のふるさと祭りでは、町の商工会青年部の出店もございました。

教育関係機関のほうでまいりますと、西大和学園の生徒さんから昨年度はいろんな提案をいただきまして、6年度に実施した提案といたしましては、広報でもお伝えしておりましたボードゲーム大会、この4月に桜祭り、昨年度のKAWA I B L A C Kに関するレシピ

の考案であったり、アンケート聴取、図書館でのバブルアートなどがございます。

令和7年度、本年度に継続を予定している企画としましては、ふるさと祭りのスクリーンで、Vチューバーの方とのコラボでKAWA I B L A C KのPRタイムでありましたり、そのほかにはデザイン・アートのイベント、これはふるさと祭りとは別の企画になるんですけども、継続でボードゲーム大会の拡大版のご希望もいただいています。KAWA I B L A C Kのレシピ関連につきましても、生徒さんのほうの継続でつながっていきたいというようなお声をいただいております。

また、ほかにイベントだけではなくて、KAWA I B L A C Kの加工品開発では、黒豆のずんだ風かき氷などの試作も西大和の生徒さんと町内のスイーツ店との連携で、今、試作をしているところです。KAWA I B L A C Kの加工品につきましては、商工会でも和菓子の試食をしていただいたり、畿央大学との連携で、ご家庭で簡単に作っていただけるようなレシピ、まだ完成には至っていないんですけども、試作を重ねているところです。

また、令和7年度に畿央大学の大学祭のほうで、まほろば夢市と河合町が初めて学外の団体としては参入させていただくことになりました。こちらのほうでも生徒さん、学生さんとコラボして、学生さんのほうでは黒豆KAWA I B L A C Kを使ったスイーツの販売、その横でまほろば夢市のほうで、黒枝豆を販売するというようなことを今年度は予定しております。

以上です。

- 1番（杵本貴司） はい、議長。
- 議長（疋田俊文） 杵本貴司議員。
- 1番（杵本貴司） ありがとうございます。

本当に回答の数から見ても、かなり連携とか人と人のつながり、団体との広がり、ネットワークということで、今現在も活動していただいている様子がよく分かりました。たくさんの方々が観光に町内の方も関わることで発信力も強くなって、さらに関わってこられる皆さんの人数も増えることで、より観光が盛り上がっていくと思いますので、今後も引き続き、そういったネットワークづくりという活動を生かしていただけたらと思います。

続いて、今現在、大阪で関西万博が開かれておるんですけども、奈良県におきましても、河合町におきましてもPRブースということで、先日も奈良県の「万博でつむごう！奈良の未来を」をテーマに関西パビリオンで河合町のブースを出されていて、僕もちょっと拝見させてもらいにいったんですけども、当日は河合町の文化を身近に感じてもらうというところ

ろで子供さんとか中心に銅鏡のレプリカの作成であったり、砂かけ祭のVRの体験であったり、本当に僕がちょっと見た限りでは子供たちの人だかりが出て、河合町はすごく人気のあるような見せ方ですか、文化の見せ方をすごく子供たちにもなじみがあるような形でしておられるんだなということですのですごく感心していたんですけれども、当日、関西万博でうちの河合町のブースにはどれぐらいのお子さんとか保護者の皆さんが来られていたか、ちょっと教えていただけますでしょうか。

○観光振興課長（桐原麻以子） はい。

○議長（疋田俊文） 桐原課長。

○観光振興課長（桐原麻以子） ありがとうございます。

万博会場の関西パビリオンの横のスペースだったんですけれども、河合町のほう、今、議員がおっしゃったように銅鏡のレプリカのほうでも100以上、110を超えていたと思います。バーチャルリアリティーの砂かけの動画のほうも150ぐらいご確認いただきまして、トータル300を超えるブースへのお立ち寄りをいただいております。

○1番（杵本貴司） はい。

○議長（疋田俊文） 杵本貴司議員。

○1番（杵本貴司） ありがとうございます。

ほか北葛とか生駒郡とかのブースも横に並んでいたんですけれども、河合町の見せ方がすごくきれいななんか、非常に人だかりが河合町に集中していたところを見させてもらって、すごく企画力も高く、努力されているなという様子もよく分かって大変感謝しております。ありがとうございます。

万博の会場にも、今、河合町とか9市町村に関わっておりますWEST NARAのスタッフの皆さんも来て、奈良のPRということで一生懸命動いておられたんですけれども、河合町もWEST NARAに参画させていただいて、当然、万博での共にする活動もそうですし、今現在、9市町村で広域にまたがる観光の施策の充実というところでWEST NARAと共に河合町も観光施策を打っていつている最中なんですけれども、今後もしろいろWEST NARAと連携することで大きな効果が見られるというところで進めておられると思うんですが、具体的にどういったような効果が今後見込まれるというふうに推測されておられるのでしょうか。

○まちづくり推進部長（中島照仁） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 中島部長。

○まちづくり推進部長（中島照仁） 私からお答えさせていただきます。

WEST NARAでは、隣接市町をつないだ3つのガイドツアーが構築されておりましたが、河合町観光ボランティアの方に積極的に携わっていただき、結果2つの連携ガイドツアーに河合町を盛り込むといったような結果となっております。

また、すむ・奈良・ほっかつ！協議会で導入いたしましたシェアサイクルをWEST NARAにも提案いたしましたところ、生駒郡4町におかれましても令和6年度末に協定が締結され、これを受けまして、今後広域でのサイクリングルートの構築や、またルートマップの制作を今年度予定しているという運びになっております。

○1番（杵本貴司） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 杵本貴司議員。

○1番（杵本貴司） 今、部長おっしゃった内容で、そのツアーは具体的にどんなツアーになっているか、ちょっと簡単に触れてもらえたらと思うんですけども。

○まちづくり推進部長（中島照仁） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 中島まちづくり推進部長。

○まちづくり推進部長（中島照仁） 具体的に、斑鳩町と河合町をつなぐツアーがございまして、これについては法隆寺や中宮寺、廣瀬大社などを巡り、また河合町と広陵町をつなぐツアーもございまして、これにつきましては馬見丘陵公園内のナガレ山古墳などのほか、神社・仏閣を巡るツアーを企画しております。

参加者には昼食チケットをご利用いただきまして、エリア内の店舗で昼食を取っていただくといったツアーになってございます。

○1番（杵本貴司） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 杵本貴司議員。

○1番（杵本貴司） 先日、万博会場でもWEST NARAのスタッフの方ともいろいろお話しさせてもらって、広域でいろいろ河合町含めて9市町村で取り組むことで一定数、観光客が増えたり、メニューづくりですごく幅が持たせてきていて、すごく効果が出ているということはお伺いしておるんですけども、サイクリングルートとか具体的に今特に力を入れておられる活動があると思うんですけども、町の観光としての効果といいますか、そういった点をちょっと教えていただけたらなと思います。

○まちづくり推進部長（中島照仁） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 中島部長。

○まちづくり推進部長（中島照仁） 先ほどのガイドツアーと同様に、エリア内で昼食や軽食を取っていただけるような交通設定をしまして、またあと飲食店に限らず、WEST NARAエリアの物販などの消費効果にもつながるルートの立案というものを予定しております。

また、今年度におきましては、WEST NARAに加盟している市町それぞれの特性を生かし、観光体験の造成を予定しております。河合町といたしましても、地域に還元できるオリジナリティーある体験を提供していきたいと考えております。

○1番（杵本貴司） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 杵本貴司議員。

○1番（杵本貴司） 今、部長おっしゃったとおり、広域で様々な取組をすることによって幅広く、また各市町村も切磋琢磨しながらいろんな企画立案とかアイデアも出てくると思うので、引き続きWEST NARAを中心に広域の観光事業も力を入れていっていただけたらと思います。

次に、私から観光の推進についてちょっと提案というか、2点ほどあるんですけども、まず1点目が河合町の観光的資産の中心としては廣瀬大社があると思うんですけども、町の誇りであり、ルーツとも言える廣瀬大社なんですけれども、本当に子供たちに郷土愛を育むために、今、廣瀬大社では宮司さんとかも廣瀬大社の今までの神話的のところも丁寧に丁寧に子供たちにも説明してくださっておるんですけども、そういう廣瀬大社と龍田大社、これは水の神、風の神というところではいろんなストーリーが広がってくるような話題性もありますので、ぜひとも河合町の子供たちに廣瀬大社のそういう神話を通じて、地域愛ですとか優しさですとかたくましさとかいうところをうまいこと伝えていけるような廣瀬大社をモチーフにした物語というか紙芝居、ストーリー的のところをつくっていくと、子供たちに例えば紙芝居の読み聞かせとかをすることで、小さいころから廣瀬大社になじむような物語を読み聞かせで聞くことによって河合町への愛着が生まれたり、またそのことによって河合町にずっと住んでいたいとか、河合町を大切にしたいとかいう思いにつながってくると思うんですけども、そういった企画を僕ら子育て世代の中で廣瀬大社に日頃、よく散歩とか行かれるような子育て世代もおられますので、その中でそういう物語とか紙芝居とかそういったような物語づくりにちょっと協力しようかなというような声も挙がったりもしているんですけども、その辺、観光施策としてご協力いただけたらなと思うんですけども、お考えを聞かせてください。

○観光振興課長（桐原麻以子） 議長。

○議長（疋田俊文） 桐原課長。

○観光振興課長（桐原麻以子） ご提案ありがとうございます。

町といたしましても、廣瀬大社であったり、砂かけ祭というのは非常に大事な観光のポイントでもありますし、町の郷土愛醸成という観点では大事にしていきたいと思っております。

また、それを子供たちになかなか本当に浸透させるのが難しい、特に校区が違っていると知らないというような子供たちが多く中で、とてもありがたいご提案だと思います。

また、保護者世代の方からのそういったご提案をいただいた上で、町のほうと協力しながら紙芝居であったり、そういうツール作らせていただけるということであれば、とても町の魅力発信としても素敵な活動につながっていくと思いますので、観光振興課のほうとしても一緒に支援させていただきたいというふうには思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

○1番（杵本貴司） 議長。

○議長（疋田俊文） 杵本貴司議員。

○1番（杵本貴司） そういうストーリーを子育て世代で考えるような集いの場をつくるだけでも、町の観光資源ですとか、廣瀬大社以外の話題も広がったりしながら、交流の場もつくりながら河合町の観光はどういうものかなという話題にも発展していくと思うので、そういう機会をまたつくれる限りつくっていききたいと思いますので、またサポートのほうをよろしく願いいたします。

2点目に、さらに廣瀬大社のことを調べていくうちに、神社の伝承としても廣瀬大社は語り継がれているんですけれども、その中に廣瀬大社の大和橋というところに行き着いたんですけれども、日本のかんきつ原種である、県内では既に大和橋を増やしていく活動をされている方もおられるようなんですけれども、まさに大和橋の起源となる原種を要しているのが廣瀬大社でございます。

その橋に対する取組をできたら廣瀬大社、そこを中心に橋に対していろいろPRで広げていくような活動を河合町の廣瀬大社がその橋を要するところの中心的なところなので、廣瀬大社の観光と含めて町のシンボルとして橋を広げていけたらと思うんですけれども、橋に対して町の観光の対策としての今の進捗ですとか、今後の計画等ありましたらちょっと教えていただきたいと思っております。

○観光振興課長（桐原麻以子） 議長。

○議長（疋田俊文） 桐原観光振興課長。

○観光振興課長（桐原麻以子） ご質問ありがとうございます。

これまで河合町で橘に関して、町であったり、町内でという取組は実はございませんでした。

観光振興課のほうでも特産品の開発でありますとか、町のオリジナリティーとか特別感というものでいろいろ資料を探したりしていた中で、橘というところに実は目をつけておりまして、町としても何かしらの取組は進めていくべきだと考えております。

実は先月、5月に、今、議員おっしゃった大和郡山市の大和橘プロジェクトという名前で事業を展開されている方にお話を聞きに行かせていただいております。いろいろお話をしていく中で、本当に橘というのが古代万葉集の時代とかにはとても身近でたくさんあったものであるのが、現在は準絶滅危惧種に県のほうで指定されているほど減少しているということも分かってまいりました。

やっぱり廣瀬神社のある河合町としては、何かしらこれを未来につないでいかなければならないもの、大切なものだとは思っております、その郡山行かせていただいたときに、現在プロジェクトを進めておられる方から廣瀬神社の橘の種から育てていらした苗を十数本、分けていただくことができましたので、まだ本当少なく試験的にはあるんですけども、大塚山古墳の近くにあります町有地に今、試験的に植えて文化財担当のほうでお世話をしている。まだ本当1か月なので、根がついたか、ついていないかというところではあるんですけども、本当息の長いプロジェクトにはなるかと思うんですけども、特産品であったり、町の先ほど議員はシンボルという言い方をさせていただいたんですけども、そういうものにつなげられないかなというところで、これから試行錯誤をしていこうという本当に今、手をつけているとも言えない状態ではあるんですけども、何かしら広げていけたらなというふうには思っています。

ただ、町だけではやっぱり難しいところがありますので、いつということも今、明確にはできないんですけども、町内であったり、協力者を募りながら町内外広めていって、特に町内では育てて、品種として存続していくというのを考えていきたいなというふうには思っております。

以上です。

○1番（杵本貴司） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 杵本貴司議員。

○1番（杵本貴司） 橘については、やっぱり河合町のシンボルとして、ちょっと時間はかか

っても末永くそういうのを育てていって、また住民さんの期待も徐々に徐々に高まっていくと思いますので、何か周知する機会をできたら早めに打ってもらえたらなというのも思うんですけれども、例えば郷土を学ぶ会さんの講演会等、毎年ありますので、そういうところで橋をテーマに今年はどこか1回、講演会を打ってもらうなり、何か観光に興味がある方が集まる場所で橋をテーマにした研修会なり、講演会をしてもらうと、より一層、先の長い活動にはなると思うんですけれども、協力者も増えてくるかなと思いますので、そういった企画をまたいろんな場面で考えてもらえたらなと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○観光振興課長（桐原麻以子） 議長。

○議長（疋田俊文） 桐原課長。

○観光振興課長（桐原麻以子） ありがとうございます。

ちょうど郡山にお話を聞かせていただいた方も橋関連のお話はしに行くよというようなお声もいただいておりますので、今、議員もおっしゃっていただいたような学ぶ会との共催での講演会のほうにつないでいきたいなとは思っております。

まだ企画として確定はしていないんですけれども、確定したらまた広報挟み込みなどでお知らせしていきたいと思いますので、ぜひ町内の皆様、聞きに来ていただけたらなというふうには思います。よろしくお願いします。

○1番（杵本貴司） 議長、すみません。

○議長（疋田俊文） 杵本貴司議員。

○1番（杵本貴司） それでは、2点目の子育て世代から選ばれる河合町の教育ビジョンについて、移りたいと思います。

再質問の1つ目といたしまして、先ほど中尾部長からご回答があったんですけれども、やはり河合町がこれから教育ビジョンを考えていく中で、子育て世代から、また若い世代からこの町で子育てをしたい、河合町に住んで子育てをしたいと言ってもらえるような河合町に今後つくり上げていく必要があると思います。

これはどこの他市町村も様々な施策を切磋琢磨されている最中で、河合町のオリジナリティーがこれから求められてくるような時代になってくると思うんですけれども、まず先ほど部長、河合町の教育の中で大切なことをいろいろ挙げてくださっていたんですけれども、特にまず子育ての中で一番大切になってくるというのは、やはり通学路の安全・安心というところは子育て世代からとっても大切な部分かなと思うんですけれども、今までも大津市とか亀岡のほうで本当に非常に残酷な事件等もあったので、非常に通学路の安全対策については

保護者の皆さんも、これから河合町に住んでくるような若い世代の方々にとっても気になるところかなと思います。

また、最優先にする課題かなとは思いますが、例年、河合町の通学路安全推進会議が開かれて、町内の危険箇所、第1小学校、第2小学校から上がってくるような危険箇所について、県とそして町とそして警察と連携しながら優先順位を決めながら危険箇所を整備していったらと思うんですが、令和6年度の出た危険箇所についての対応実績等あれば具体的に教えていただけたらと思います。

○教育総務課長（川村大輔） 議長。

○議長（疋田俊文） 川村課長。

○教育総務課長（川村大輔） お答えさせていただきます。

通学路の安全対策の要望につきましては、27件に対して24件対応済みでございます。

令和6年度の実績については、約9割の対応済みとなっております。主な改善の実績については、路側帯の設置や歩行者用の信号の設置等でございます。残りの3案件につきましては、西和警察や高田土木と協議しながら解消に向けて取り組んでいるところでございます。

令和7年度につきましても、引き続き河合町通学路安全推進会議を開催し、危険箇所の対策について協議し、対応を進めていきたいと考えております。

○1番（杵本貴司） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 杵本貴司議員。

○1番（杵本貴司） 昨年度の実績とかも、おとしもいろいろ実績とか見させていただいてるんですが、町のほうで対応できるところはほぼほぼ予算の限りの中で対応していただいていると思います。引き続き県とか警察と連携して、つけていかなあかんハード面に関してはまた協議を進めながら、できたら10割きっちりできるような形で進めていけたらと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

子育て世代がこの河合町で子供たちを伸び伸びと育てたいという中で、もう一つ大事な柱としては、身近な地域での遊び場、公園というところも大きなテーマになってくると思うんですが、昨年度は中山田池公園の坂道に関してはすごく凸凹、がたがただったんですが、それをきれいに改修していただきました。

今年度は予算の中では公園の長寿命化計画の中で、同じく中山田池公園のベンチとか照明とか階段の改修の予定をされておると思うんですが、中山田池公園だけではなく、日頃、放課後の子供たちがたくさん集まる公園として赤田池の公園もあります。ここには複合

遊具とかたくさんあるんですけども、その辺もだんだん老朽化してちょっと見直しが必要かな、改修が必要かなというような状況でもあるんですけども、その赤田池公園の遊具等の改修について、どのように進捗しているか、ご回答お願いいたします。

○まちづくり推進部長（中島照仁） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 中島まちづくり推進部長。

○まちづくり推進部長（中島照仁） 赤田池公園につきましては、複合遊具、砂場、ブランコといったものが設置されており、議員お述べのように、当該公園は平日休日問わず、多くの子供たちが元気に遊んでくれております。

公園施設につきましては、経年の劣化がとても進んでいる状況でございます。職員にて補修など対応しているところではございますが、今後、更新や大規模な改修を視野に入れながら計画を進めてまいりたいというふうに考えております。

○1番（杵本貴司） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 杵本貴司議員。

○1番（杵本貴司） ありがとうございます。

そうしたら、引き続き公園の整備のほうも進めていただけたらと思います。お願いいたします。

続いて、学校の老朽化対策、これずっと引き続いて僕だけじゃなくて、様々な議員さんもいろいろご質問していただいて、昨年度やっと河合第2中学校のトイレの洋式化、乾式化、これがきれいに整備できたと思うんですけども、何か生徒さんたちから教育委員会のほうにその整備ができた感想とかご意見とか何かいただいている部分があれば、できたらちょっとお聞きしたいなと思います。

○教育振興部長（中尾勝人） 議長。

○議長（疋田俊文） 中尾教育振興部長。

○教育振興部長（中尾勝人） お答えさせていただきます。

この工事の後、町長も含め教育長、私も確認というか、整備の終わった後行かせていただいたところがございます。直接生徒のほうから声というのは聞かせていただいたところはないんですけども、先生のほうから子供の意見を教えていただいたところがございます。例えばきれいになって衛生上よくなってよかったとか、LED照明がかなり明るくなってよかったとか、湿式から乾式に替わったことによって清掃しやすくなったとか、臭いがなくなった、いろんな意見をいただきながら喜びの声をいただいたところがございます。

以上でございます。

○1番（杵本貴司） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 杵本貴司議員。

○1番（杵本貴司） ありがとうございます。

生徒さんからも非常に衛生面でも使いやすくなって、学校も明るくなったというような声も私のほうにも届いておりますので、ハード面の改修、今までちょっと計画どおりにできていなかったところもあるんですけども、森川町長になられていろいろ学校のハード面も徐々に徐々によくなってきている現状であると思うんですけども、今年度予算の中では第2中学校の外壁の改修工事、また各小学校の体育館の空調の工事、第2小中学校の給食棟の新築工事の設計業務等、予算の中に盛り込まれているんですけども、この3つの事業についての今の進捗状況についてまた教えてもらえたらと思います。

○教育総務課長（川村大輔） 議長。

○議長（疋田俊文） 川村教育総務課長。

○教育総務課長（川村大輔） ありがとうございます。

3つの進捗状況につきましては、5月23日に入札を行い、業者が決定しております。今、設計業務を進めているところでございます。

空調設備に関しましては設計施工ということになりますので、非常にタイトなんですけれども、設置工事に向けて進めてまいりたいと考えております。

○1番（杵本貴司） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 杵本貴司議員。

○1番（杵本貴司） 今、2中の外壁のこととか、2中、2小の給食棟のこととか、割合もともと2小が3小と合併した中できれいに整備されてきたので、その延長線上で2中の躯体の状況が悪かったり、なかなか議員さんみんなでその状況を見に行つて早急に改修が必要やということで、2小、2中というところで改修工事進めてきていただいたんですけども、やはり1小、1中の部分に関しましても長寿命化計画が迫っているところもありますので、今後早急に1中、1小の部分も本当に雨漏りがしていたり、老朽化というところはたくさん声を聞いている部分がありますので、その辺1小、1中の部分に関してもしっかりと力を入れながら改修工事等しっかりと進めていく必要があると思うんですけども、現状どういう計画になっているか、教えていただきたいと思います。

○教育総務課長（川村大輔） 議長。

○議長（疋田俊文） 川村教育総務課長。

○教育総務課長（川村大輔） 議員おっしゃるようにちょっと老朽化がひどくて、躯体のほうもかなり劣化しているといった状況です。

長寿命化計画でも第1中学校の改築工事というのが迫ってきていまして、これから今年度、再編検討委員会を開催して、そのことも踏まえて検討していきたいと考えております。

○1番（杵本貴司） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 杵本貴司議員。

○1番（杵本貴司） 今、課長からありました学校再編の計画です。これやっぱりPTAの保護者等の中でもこの間アンケートもあって、そのアンケートの内容等もいろいろ保護者では議論があるんですけども、非常にPTA、保護者はじめ関心のある分野ではあるんですけども、いろんな僕に入ってくる意見を聞いていくと通学路の安全対策、先ほどの僕の質問の一番最初に持ってこさせてもらった、やはり学校の安全・安心というところの一番最初の大切なところというところで、通学路の安全対策というのが非常に大切やなと思うんですけども、通学路に関しましてもまだまだ1小校区、2小校区、危険箇所がたくさんあって、その整備を一生懸命町の皆さんも一丸となって進めてくださっている最中でもありますので、再編というところで通学路が一気に変わる、校区も変わってしまうと早急にそういうふうに進めていくと、なかなかそれを不安に感じはる保護者もかなりおられるかなと思いますので、その辺もしっかり保護者の方々の意見等も踏まえながら、学校再編については早急にぱっと進めるのではなくて、ゆっくり保護者の方のしっかり聞きながら、進めながら計画をつくっていただきたいなと思うんですけども、学校再編の計画について、教育長、ちょっとご意見いただきたいと思います。

○教育長（上村欣也） 議長。

○議長（疋田俊文） 上村教育長。

○教育長（上村欣也） 今、ご指摘いただきましたように安心・安全がやっぱり一番大事であります。通学路の件とか、今の校区の件とか、今ご意見いただきましたけれども、現時点では私のほうからお答えはできませんけれども、ただ、今後、検討委員会を開催いたしまして、いろんな分野に関しての方針を検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解のほうをよろしく願いいたします。

○1番（杵本貴司） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 杵本貴司議員。

- 1番（杵本貴司） 本日、私から一般質問させていただきました観光の戦略と教育ビジョン、この両輪がしっかりとかみ合うことで、これから河合町の人口もどんどん増えたり、若い世代、そして子供たちが増えるような町に変わっていくと思いますので、ぜひとも今日僕が一般質問した内容をしっかりと僕も含めて一緒に考えながら、河合町をよりよく、また人口も増やせるような活力あふれる町にしていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いたします。ありがとうございました。
- 議長（疋田俊文） これにて杵本貴司議員の質問を終結いたします。

◇ 梅 野 美智代

- 議長（疋田俊文） 4番目に、梅野美智代議員、登壇の上、質問願います。
- 3番（梅野美智代） はい、議長。
- 議長（疋田俊文） 梅野議員。
- （3番 梅野美智代 登壇）
- 3番（梅野美智代） 皆さん、こんにちは。議席番号3番、梅野美智代です。よろしくお願いたします。

通告書に基づき、一般質問をいたします。今回は大きく3点を質問したいと思います。

1点目は、こどもまんなか政策の推進についてです。

こどもまんなか政策は、日本政府が推進する子供を中心に捉えた包括的な社会づくりを目指す政策です。2023年4月1日、こども家庭庁発足に伴い、子供政策がこれまでの省庁縦割りから一元化され、子供最善の利益を中心に捉えたこどもまんなか社会の実現を目指しています。この理念の下、常に子供の最善の利益を第一に考え、社会の真ん中に子供や子育て支援を捉えることが政策の基本姿勢です。

こどもまんなか政策は、子供と子育て世代の目線に立った制度設計と社会的支援を体系化して進める政府主導の横断的な子供施策です。政策の一元化、年次P D C A評価、若者参加、地域実施と様々な角度から改革が進められています。自治体や学校、地域団体、企業などにとっては、自らこどもまんなか応援サポーターとして具体的な行動を起こすことで、制度と地域社会の双方で不断の実践が期待されます。具体的な取組として、経済的支援の強化、質の高い教育・保育サービスの提供、伴走型支援の強化、ヤングケアラー支援、子供の居場所

づくり、子育てしやすいまちづくり、子供政策のDX推進など、こどもまんなか政策は子供たちの幸福な生活と健やかな成長を社会全体で支えることを目的としており、少子化対策としても重要な位置づけがされています。

そこで、質問いたします。

①本町として、こどもまんなか政策をどのように位置づけ、認識していますか。

国のこども大綱やこどもまんなか実行計画に対する町の対応状況について。

②こどもまんなかアクションや重点政策に関連した取組状況は。

各部署横断での子供政策の一元的な推進体制は構築されていますか。

③施策立案や実施において、子供や保護者の意見をどのように取り入れていますか。

意見収集のための仕組みや場の設置状況をお聞かせください。

④こどもまんなか政策推進のために、予算、人員はどの程度確保されていますか。

子供政策に関する専門職の配置状況。

⑤こどもまんなか社会の実現に向けた今後の計画やビジョンを述べてください。

施策推進における課題とその解決策を教えてください。

2点目は、子ども家庭センター設置について。

既存の子育て支援体制との連携や必要な人員の確保、財政的な課題への対応について、町の見解をお聞かせください。

3点目、学童保育の民間委託について。

①委託に当たっての背景や理由を教えてください。

②町としての責任の所在はどのように担保しますか。

③保護者や地域住民への丁寧な説明、意見聴取は行いましたか。

④委託方針や運営体制の透明性の確保について。

⑤委託先事業者の選定基準やプロセスを教えてください。

⑥これまで町が雇用していた職員は継続されますか。

⑦問題が発生した際の対応方針や相談体制はどのようになりますか。

以上、再質問は自席にて行います。

○町長（森川喜之） 議長。

○議長（疋田俊文） 森川町長。

○町長（森川喜之） 梅野議員のご質問にお答えをいたします。

私への質問は、1番のこどもまんなか政策についてどのように考えるかということでござ

います。

私も、こどもまんなか政策は、子供を社会の中心に見据え、子供の最善の利益を優先的に考える社会の実現を目指すものと認識をしております。子供を真ん中に置き、出産支援や子育ての支援の充実、子供の貧困対策、障害児支援の強化、教育環境の整備、また不登校支援などを関係各課で連携をして、事業の推進を行っていきたいと考えております。

私からは、以上の答弁でございます。

○福祉部長（浦 達三） 議長。

○議長（疋田俊文） 浦福祉部長。

○福祉部長（浦 達三） 私のほうから、1、こどもまんなか政策の推進についてのこども大綱やこどもまんなか実行計画に対する対応状況、こどもまんなかアクションや重点政策に関連した取組、各部署横断での子供政策の一元的な推進体制の構築、施策立案や実施において、子供や保護者の意見をどのように取り入れたのか、また意見収集の仕組みや場の設置状況、こどもまんなか政策の推進のための予算、人員の確保状況、子供施策に関する専門職の配置状況、こどもまんなか社会の実現に向けた今後の計画やビジョン、施策推進における課題とその解決策について答弁させていただきます。

こども大綱やこどもまんなか実行計画への対応状況として、ライフステージ別や子育て当事者への支援に対応するべく、こども家庭センターを設置しております。こども家庭センターでは、困っていることや支援してほしい対応の聞き取りを行い、その人に合った支援をコーディネートしていきます。

こども家庭センターを含む子育て関連部門の専門職としましては、保健師、社会福祉士、保育士、栄養管理士等を配置しております。様々な事情を抱えた家庭が年々増えており、安心して子育てできる環境を整えるために、今後さらに相談体制を強化する必要があると感じております。

また、こどもまんなかアクションに関連した事業として、支援してほしい方、支援したい方のマッチングを行うファミリーサポートセンターの設置を目指しております。

各部署横断での一元的な推進体制については構築されておりませんが、多岐にわたる相談内容に対応できるよう関係部署と連携のほうを図っております。必要に応じて会議も行い、情報共有のほうを行っております。

保護者からの意見をどのように取り入れたかについては、現在、河合町では子ども・子育て支援事業計画を策定しております。その際にニーズ調査を実施し、自由意見等による保護

者から様々な意見をいただいております。この意見を参考に事業の検討、実施を行ってまいります。

また、子供等の意見聴取は現在できておりません。今後、意見聴取のための仕組みづくりについて考えてまいりたいと考えております。

こどもまんなか社会の実現に向け、子供を社会の中心に据え、全ての人が子供の幸福と成長を支える体制づくりが必要と考えております。子供たちが求めているものを調査し、大人、社会、行政が一体となって支えていかなければならないと考えております。

続きまして、2番、こども家庭センターの設置についてですが、こども家庭センターは妊娠届出から妊産婦支援、子育てや子供に関する相談を受けて支援をつなぐためのマネジメント等を行い、子育て世帯などに対する切れ目のない支援を行うことを目的に、令和6年度に開設しました。

現在、子育て健康課内にこども家庭センターを設置し、社会福祉士、保育士が業務に当たっております。必要に応じて保健センター、こども園、教育委員会、小中学校、障害担当、児童相談所などと連携し、支援体制を構築しております。

続きまして、3番、学童保育の民間委託について答弁いたします。

委託に当たっての背景や理由についてでございますが、共働き家庭が増加し、年々、学童保育入所希望者が増加していることに伴い、指導員不足が慢性化しております。学童指導員は不規則な勤務で、月により勤務時間が大幅に異なり賃金が不安定であることや、仕事面では体力的にハードな部分もありますので、募集しても応募がない状況が続いております。

また、以前、河合町と同じように指導員確保に苦慮されていた他町から、民間委託を実施し、指導員不足が解消され、安定的な運営ができていた旨を聞き、民間委託を考えるに至ったということでございます。

責任の所在につきましては、運営の実施主体は業者となるため、責任の一端を担っていただくこととなります。その上で学童保育所管理の最終的な責任は、町にあると認識しております。

保護者の説明についてですが、5月25日、学童保育運営委託に関わる保護者説明会のほうを実施させていただきました。委託するに至った経緯や民間委託後目指している学童保育の在り方について説明のほうを行いました。保護者の方からいただいたご意見や質問に回答し、その内容を業者とのヒアリングの際に反映しております。

委託方針や運営体制について、基本的に現在公営で実施している運営体制を維持していた

できます。毎月、児童の出席簿、指導員の出勤簿、指導日誌を提出していただき、指導員の配置が正しくなされているか、日々の保育状況は問題ないかなどのチェックを実施していきます。今回のプロポーザルによる業務選定基準としましては、運営方針、実施体制、事業内容、保護者や児童への対応、安全管理体制、価格となっております。

現在、町で雇用している指導員については、仕様書に、現在学童保育所に従事する者が希望する場合には、優先して継続的に雇用する旨を記載しております。積極的に雇用するよう、促してまいります。

問題が発生した際の対応方針、相談体制については、学童保育内で問題が発生した際は、第一に対応するのは指導員となります。指導員と業者で対応した後、町に報告がされることとなります。保護者から町へ相談や報告があった際には即座に業者と連携を取り、現状確認や対応状況について聞き取りを行う予定で考えております。

以上です。

○3番（梅野美智代） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 梅野議員。

○3番（梅野美智代） それでは、こどもまんなか政策について再質問いたします。

こどもまんなか政策への町の見解として、子供を中心に置いた事業を進めるということで、一例として、教育環境の整備や不登校児童の支援を挙げられていました。

そこで質問ですが、不登校児童支援の環境整備として、学校へ行けなくても自宅で授業を受けることのできる体制づくり、オンライン授業の実施は行われていないのでしょうか。実際に不登校児童を抱える保護者から、小学校ではできていたが、中学校では環境が整っておらず、できないという声を聞いています。この点について、現在の小中学校4校の実施状況はどのようになっていますか。

○教育振興部長（中尾勝人） 議長。

○議長（疋田俊文） 中尾教育振興部長。

○教育振興部長（中尾勝人） 私のほうから、お答えさせていただきます。

オンライン授業の体制につきましては、各小中学校全ての学校がオンライン授業を受ける体制はできているという認識でございます。構築しております。

ただし、これはちょっと河合町ではないんですけれども、別の学校の話ではありますが、オンライン授業を始めたことによって、その生徒が一度も学校に来なくなって卒業していったという事例もございます。このオンライン授業を始めるに当たっては、保護者、生徒、意

見をしっかりと尊重しながら進めていく必要があるということで考えております。

以上でございます。

○3番（梅野美智代） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 梅野議員。

○3番（梅野美智代） 実施しているとのことですが、保護者の方からそういった声が挙がっているということは周知されていない、教員間で共有がなされていないのではないのでしょうか。実施しているのであれば、きちんとそういったことを周知して環境整備を進めていくべきだと思います。いま一度、学校との連絡を図っていただくことはできますでしょうか。

それと、オンラインで授業を受けたら学校に来ない子がいるという例を挙げられましたが、それはそれでいいと私は思います。

○教育振興部長（中尾勝人） 議長。

○議長（疋田俊文） 中尾教育振興部長。

○教育振興部長（中尾勝人） お答えさせていただきます。

確かに保護者がそういった形で学校のほうにオンライン授業を受けたいと言って、学校のほうで断ったという形になりますと、こちらが把握している部分と相違がございますので、そこにつきましてはしっかりと学校のほうには周知を徹底していきたい、またオンライン授業をするようにということも指示していけたらというふうに考えております。

オンライン授業をする場合は、そういった事例があるということも頭の中に入れながらさせていただいているということで、先ほど学校に来なかった事例もあるということもお伝えさせていただきましたので、そこも一概には言えないところも含めていろんな状況を把握しながら進めていくようにということで、学校には周知していきたいと考えております。

以上でございます。

○3番（梅野美智代） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 梅野議員。

○3番（梅野美智代） それでは、第2中学校なんですけれども、すごく保護者の方がオンライン受けられないということで残念がっていましたので、よろしく願いいたします。先生方のほうに周知よろしく願いします。

次に、継続的に学習を受けることのできるよう、オンライン支援だけでなく、その後のフォローアップ体制なども構築していただければ、なおよいのではないかと思います。分からないことがあれば聞くことのできるような時間を設けるなど、不登校児童が教育を受けるこ

とのできる環境整備に努めていただきたいと思います。

次に、子供の意見を聴取できていないということですが、そういった場を設ける必要があると考えます。先日、地域の中学生から、自由に自習したりできるフリースペースが欲しいという声を聞きました。

私は三宅町の交流まちづくりセンターに視察に行きました。町長が自ら説明をしていただき、町長の子供に対する思いが詰まった施設になっていました。そこにはフリースペース、自主学習スペース、図書フロア、学童保育クラブ、子育て世代包括支援センターも設置されていました。最近はそのような放課後に自習できるスペースが近隣でも増えているようで、河合町の子供たちもうらやましく思っているようです。しかしながら、そういった意見をどこに言ったらいいのか分からないということで、その児童の保護者の方が声をかけてくださいました。

これについて幾つか質問したいのですが、まず自主学習スペース、フリースペースの設置についてはどのようにお考えですか。町立公民館が新しくできたので、1室をそのような形で開放できればと思うのですが、いかがでしょうか。

○教育振興部長（中尾勝人） 議長。

○議長（疋田俊文） 中尾教育振興部長。

○教育振興部長（中尾勝人） お答えさせていただきます。

まず、今現在は、図書館の2階というところを自主学習室という形で設けさせていただいております。

今後につきましては、新たに町立公民館が設置されましたので、今考えておるのは7月から8月にかけて、夏休み期間をそういった形で自習室という形で部屋を設けさせていただく予定で今、公民館の1室を無料開放するというところで進めているところでございます。

以上です。

○3番（梅野美智代） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 梅野議員。

○3番（梅野美智代） ありがとうございます。

実施していただき、好評であれば通年で行っていただければと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

○教育振興部長（中尾勝人） 議長。

○議長（疋田俊文） 中尾教育振興部長。

○教育振興部長（中尾勝人） お答えさせていただきます。

現時点では、新しい公民館、貸館業務というのがメインになっている公民館でございます。その中で1室フリースペースという形で自習室を設けていくという今動きは、夏休みに向けて進めさせていただいております。

実際、夏休みを稼働させてから、今後どのような形で、例えば土日の開放であったりとか、今おっしゃっていただいた放課後の開放であったりとかいろんなことも考えながら、まずは夏休みというところで検討しておりますので、夏休みを実施させていただくということでご理解をお願いします。

以上でございます。

○3番（梅野美智代） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 梅野議員。

○3番（梅野美智代） ありがとうございます。

子供の声を聞いて、ぜひそのように実施してあげてほしいと思います。よろしく願います。

次に、子供が意見を発信できる場についてですが、子供の意見を聞く仕組みづくりに取り組んでほしいと思います。例えば子供意見箱の設置や子供意見ワークショップなどを行うのはいかがでしょうか。子供の意見の聴取について、町の考えをお聞かせください。

○福祉部長（浦 達三） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 浦部長。

○福祉部長（浦 達三） 子供たちが成長する社会で、子供が社会の一員として参加できる仕組みづくりというところで、そういったアンケートを聞くのは非常に有効であると考えております。

今回、第3期の子ども・子育て支援計画の中では子供さんの意見を聞く場がありませんでしたので、今後はまた計画をつくる際にはアンケート調査という形でも、子供さんに向けた意見を聞く場のほうは設けさせていただけたらと考えています。

また、一般的には意見を聞く場となってくると、福祉部としましてアンケート調査が一般的なのかなというふうに考えております。年齢にもよりますが、小学生の高学年であったり、中学生でありましたらスマホやパソコンなどを使う機会もありますので、そういった形で気軽に使えるネットでのアンケートであったり、そういったところが一つ考えられるのかなと思っております。

ご提案のありました子供意見箱とかその部分につきましては、子供さんたちが集まる場所、例えばちょっと教育委員会の意見を聞かないと分からない部分はあるんですけども、学校教育施設でそういったアンケートできる機会が取れるのかどうかというのは教育委員会の判断にはなるんですけども、福祉部としましては先ほど申し上げたとおり、アンケート調査というのが一番簡単にできる方法かなと考えておりますので、また実現に向けて検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○3番（梅野美智代） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 梅野議員。

○3番（梅野美智代） では、前向きに検討していただきたいと思います。

また、以前は意見を聞く場の一つとして、子供議会が実施されていきました。こちらの新聞ですが、これは2004年、平成16年、今から21年前です。今から21年前にこういうことをやっております。こちらはうちの娘なんですけれども、中学生のときに、ちょっとこの記事読ませてもらいます。

中学生が議員に扮する河合町の一日議員体験学習が河合町役場の本会議場で開かれました。中学生議員は、町長らに質問や要望を活発に行いました。自分たちが住む町の行政を中学生自身に体験してもらおうと、河合町教育委員会主催で毎年行われ、今年で8回目。町立第1と第2の両中学校の2年、3年生が対象で、この年は第1中学校から応募し19人、2年生13人、3年生6人が一日議員を希望しました。

議場には、中学生議員と向かい合って岡井町長ら理事者9人が席に着き、町議会の福田幸夫議長が議長を務められました。出された質問や要望はごみ問題や市町村合併、防犯活動、観光振興など中学生が日頃感じていることが率直に出され、町長らは厳しい財政事情を踏まえながら、誠実に答弁。最後に出された美しいまちにしていきたいとの要望を受け、岡井町長は、クリーンデーを設けて取り組んでいるので、中学生もどんどん参加してほしいという答弁をされました。

この2004年に取り組まれていることを、また今後もやってもらいたいと思います。以前、岡田議員や中山議員からの提案もありましたが、そのことについては実施について、町の考えをお聞かせください。

○教育振興部長（中尾勝人） 議長。

○議長（疋田俊文） 中尾教育振興部長。

○教育振興部長（中尾勝人） お答えさせていただきます。

ただいま子供議会ということで一日議員体験、こちら8回目というお話もありましたが、実際9回で終わったという経緯がございます。

その中で、昨年度、子供会議という形で開催をするに当たって、小学生4年生以上、中学生全員に声かけをさせていただきました。その中で2名の参加者がおられまして、議場というよりは、町長室のほうで子供会議という形で子供からの意見を聞かせていただいて、そこで町長から、教育長から回答していただいたという経緯がございます。

令和7年度につきましては、そのことも踏まえてもっと子供の意見を聞く意味であったりとか、また中山議員が言っていただきました主権者教育の一環ということも含めまして、議場で7月に開催をできればということで、今、対象は6年生が対象にはなっておるんですけども、その6年生のほうからもいろんな意見を聞きながら町がどのようにということまで質問があつて、回答をということで考えております。

そういった要望をしっかりと聞きながら、子供の意見を聞かせていただきながら対応していくというそういった機会を今回設けさせていただけたらと考えております。

以上でございます。

○3番（梅野美智代） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 梅野議員。

○3番（梅野美智代） よろしく申し上げます。

21年前からごみ問題や防犯活動、観光振興など子供たちは訴えています。今後ともよろしく申し上げます。

子供は社会全体で守り、育てるべき存在です。こどもまんなか社会の実現は、子供の権利を尊重し、家庭だけでなく、地域や行政も一体となって支えていく体制づくりが求められています。本町でも、単なる子育て支援にとどまらず、子供の声を聞き、誰一人取り残されない仕組みを構築することを強く要望いたします。

次に、ファミリーサポートセンターの設置を目指しているとのことご回答でしたが、昨年の私の一般質問では、実施されている近隣町を参考に検討しているとお答えいただきました。近隣町の実績として、必要とされている方がたくさんおられることも分かりました。子育て援助活動支援事業の交付金もありました。それなのに実現できなかった理由を教えてください。また、いつ頃を目指しているのでしょうか。

○子育て健康課長（谷田悦子） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 谷田子育て健康課長。

○子育て健康課長（谷田悦子） 私のほうから回答させていただきます。

昨年、一般質問をいただいた時点で近隣町を調査しましたが、様々な事業の進め方があり、河合町にとってどの進め方がよいのかを検討しておりました。

ファミリーサポートセンター事業は、人と人とのマッチングとなります。町として事業を進めたい、依頼したい方がたくさんいるとなっても、サポート会員がいなければ成り立ちません。人集めとサポート会員への研修が必要となります。

また、大きな問題となったのが子供さんを預かる場所と時間です。サポーターが依頼者の自宅、それとも別の場所か、別の場所となるとそれはどこにするのか、また利用時間を何時までにするのかなど、様々な課題を一つずつクリアしていく必要があると考えております。

以上です。

○3番（梅野美智代） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 梅野議員。

○3番（梅野美智代） ありがとうございます。

昨年も部長は代わりましたが、同じようなことを言われましたので、スピード感を持って来年度実施に向けてよろしくお願ひしたいと思ひます。

○福祉部長（浦 達三） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 浦部長。

○福祉部長（浦 達三） ファミリーサポートセンターの部分については今回のアンケート調査の中でもかなり意見がありましたので、先ほど課長のほうから説明もありましたように肅々と進めていかないといけない部分もあるんですけども、やはり人材の確保というところがかなり難しい部分でございますので、来年度となかなか約束できない部分はあるんですけども、近隣町を参考に河合町としても進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○3番（梅野美智代） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 梅野議員。

○3番（梅野美智代） よろしくお願ひします。

次に、こども家庭センターの実施についてですが、現在、子育て健康課内に設置されていますが、ワンストップ支援体制として子育て支援課と保健センターを豆山の郷に設置されてはいかがでしょうか。

子育て世代への相談、育児、発達、虐待予防、福祉などを1か所に引き受けることで、保護者や児童の負担軽減、支援の機会が増えると思います。他市町の福祉会館併設型でも、健康相談や子供・家庭支援が一体的に行われており、きめ細かい対応が可能となっています。

また、豆山の郷では集いの広場も実施されています。通い慣れた施設内の安心できる環境で相談できるため、福祉と子育て、家庭支援のハードルが下がります。豆山の郷は既に様々な福祉サービスを展開する拠点です。そこにこども家庭センターを置くことで、保健師、保育士等の専門職、児童相談員や発達支援スタッフ等の密な連携が可能となり、相談、支援の一元化と機能の集約による支援強化、また専門職同士の連携促進とケース対応の質の向上、地域の子育て、福祉、健康に関する拠点化と暮らしの安全の提供が見込まれると思います。相談窓口の一元化と総合支援の実現、いかがお考えでしょうか。

○子育て健康課長（谷田悦子） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 谷田子育て健康課長。

○子育て健康課長（谷田悦子） 私のほうから、回答させていただきます。

保健センターとこども家庭センターで密に連携が取れるという意味では有効と思いますが、今の場所にあっても、同じ課内ということで保健センターとこども家庭センターは連携が取れております。

ただ、こども家庭センターが移設となりますと、障害福祉部門や教育部門と離れてしまうこととなりますので、そちらの連携が取りにくくなるという懸念があります。

以上です。

○3番（梅野美智代） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 梅野議員。

○3番（梅野美智代） 町長にお聞きします。

少子高齢化が進む中、子供と家庭を包括的に支える仕組みづくりとして理にかなった配置だと私は思うのですが、町長はどのように思われますか。

○町長（森川喜之） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 森川町長。

○町長（森川喜之） 梅野議員のご質問にお答えします。

子供の相談をされるという場所は本当に大事なところでございます。また、横の連携も兼ねて考えていかなければいけないというのが基本になってくるかなと思いますので、今後、様々な面で内部で調整しながら検討をしていきたいなと考えます。

○3番（梅野美智代） はい、議長。

○議長（疋田俊文） 梅野議員。

○3番（梅野美智代） 上牧町では、2000年会館に保健センターも子育て支援課も一緒に置いておられます。広陵町でも、福祉保健センターさわやかホールに置かれております。そちらに教育委員会も置かれております。安堵町その他の町も出先機関に統合され、住民の方々に喜んでいただいていると聞いています。町長、もしお時間がありましたら、一度視察のほうに行っていただければと思います。庁舎内にあるよりも、そういうところに集約されたほうが連携できると私は思いますので、ぜひほかの市町村にも行っていただけて考えていただきたいと思います。

こども家庭センターの設置は単なる制度導入にとどまらず、町全体で子供と家庭を支えるこどもまんなか社会の実現に向けた貴重な一歩です。子供が安心して育ち、親が孤立しない町を目指し、相談体制の充実と支援の実効性を継続的に検証していただくことを求めます。

次に、学童保育の民間委託についてですが、子供にとって安全で安心できる放課後の環境を守るかが本質であると考えます。

学童指導員の働きやすい環境整備を含め制度の設計者として、そして保護者や子供に寄り添う立場としての責任を持ち続けていただくことを強く願い、私の一般質問とさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（疋田俊文） これにて梅野美智代議員の質問を終結いたします。

10分間、暫時休憩します。その後、議長交代、副議長と交代いたします。

休憩 午後 2時31分

再開 午後 2時43分

○副議長（岡田康則） 再開いたします。

◇ 佐藤利治

○副議長（岡田康則） 5番目に、佐藤利治議員、登壇の上、質問願います。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

（4番 佐藤利治 登壇）

○4番（佐藤利治） 皆様、こんにちは。議席番号4番、佐藤利治が通告書に従い、一般質問をさせていただきます。本日最後の1人となりました。もうしばらくおつき合いよろしくお願い申し上げます。

まず1つ目に、SAF、家庭からの廃食油利用の進展について。

各項目で2点の質問がございます。

3月定例会で前向きなご答弁をいただきました。河合町が回収した油でジェット機が飛ぶ日も近いと思います。その後の進展をお伺いしたい。

また、私は一番大切なのは住民の皆様にご理解、ご協力いただくかが鍵とっております。どのような手段、方法をお考えか、教えていただきたい。

2つ目に、プラごみ削減とペットボトルのキャップの回収利用について。

庁舎内にウォーターサーバーを置き、マイボトルの推進を進めたいが、過去に協議、検討された経過はありますか。また、キャップの回収は現在どのように進めていますか。

3つ目、遺族の手続き負担を軽くするため、支援窓口の開設へ。

人生100年と言われておりますが、ご家族や愛する方がお亡くなりになったとき、複雑で多岐にわたる手続きをする必要がございます。住民が来庁し、一つの窓口で完結する手続きを行い、涙にくれるご遺族の心労を軽減するお悔やみコーナーなどを開設することはできないでしょうか。また、お悔やみハンドブックのような各種手続きに必要なものを記載した冊子を作っていないでしょうか。

先月、近隣町でのお話ですが、私は2時間かかり、必要なものが足りず、翌日にもう一度行くことになりました。お亡くなりになった故人のお名前を何度も各窓口で書く、そのようなことを減らしていきたいが、いかがですか。

4つ目、熱中症対策について。

現在、梅雨型熱中症が注目されておりますが、昨年6月にもお話をしましたが、その後の進展などあればご教授ください。

他町では、数か月早くクーリングシェルター等を開設して動いているところもありますが、河合町はいかがですか。

5つ目、あき地に繁茂した雑草の除去に関する条例の改正について。

過去に数回質問をしておりますが、多くの住民の皆様のお声なので、よろしく願いいたします。

昨年12月議会では、条例の改正を議案として上程するのはしかるべきタイミングで行う、検討は止めることなく行ってきたと答弁がありました。現在のままで近隣にお住まいの方を守れるのか、またいつまでこのような税金の無駄遣いを行うのか教えてください。

以上5点、通告書、打合せに基づき、できるだけ住民の皆様がご理解しやすいご答弁をよろしく願い申し上げます。再質問は自席にて行います。

○生活環境部次長（森川泰典） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 森川生活環境部次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 私のほうから、佐藤議員の質問1番、2番、5番について回答させていただきたいと思います。

まず1番、SAFの進展についてです。

初めに、SAFについて説明させていただきます。

SAFとは、バイオ燃料の一種であり、廃食油などを航空機の燃料として再生利用したものでございます。従来のジェット燃料と比較すると、SAFを利用することにより60%から80%の二酸化炭素の削減効果が見込まれております。国におきましては、2030年までに国内の航空燃料使用量の10%をSAFに置き換える目標が掲げられております。

河合町といたしましては、これまで廃食油をリサイクル活用している周辺自治体に実施状況を伺い、実際の回収している様子、回収ボックスですけれども、見学させていただいております。また、SAFを含む廃油のバイオ燃料リサイクルを実施している業者からも説明を受け、回収方法ごとの利点・欠点等を確認しております。

今後の予定といたしましては、まずは油を集める観点から安全性を考慮し、公共施設への回収ボックスの設置を進めてまいりたいと考えております。

2つ目になります。プラごみ削減、ペットボトルのキャップの回収についてでございます。

ペットボトルのキャップ回収の取組につきましては、ごみ減量化及びリサイクルにつながる取組の一つであり、リサイクル業者への売却により収益を得たり、この収益を寄附することにより、世界の子供たちにワクチンを届けられることができる活動であると承知はしております。

河合町の現状といたしましては、ペットボトルのキャップの回収及びリサイクルはまだ実施しておりません。

5つ目になります。空き地に繁茂した雑草の除却に関する条例の改正についてであります。
令和7年4月に国土交通省から、空き地の適正管理及び利活用に関するガイドラインが公表されました。このガイドラインを踏まえ、現状の町条例では、所有者情報を活用するための項目等が不足していることを確認しております。

以上、3点の回答となります。

○総務部長（小野雄一郎） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 小野総務部長。

○総務部長（小野雄一郎） では、私からは、まず2点目にご質問いただいておりますプラスチックごみ削減の部分の庁舎内にウォーターサーバーを置く部分についてお答えいたします。

現在、様々な企業や自治体がプラスチックごみ削減に向けた取組の一例として、マイボトルの推進や使い捨てプラスチック製品の自粛などが進められておるところでございます。

議員ご提案のウォーターサーバーにつきましてですが、過去に来庁者用といたしまして庁舎玄関ホールに設置しておりましたが、コロナ禍での感染症予防対策として撤去したという経緯がございました。

マイボトルの推進ということであれば、例えば職員の飲料用としても利用できるような必要がございますので、例えば複数台の設置、またそれに対してのコストも必要となってまいりますので、慎重な検討を行っていかねばいけないと考えておるところでございます。

そして次に、4点目にご質問いただいております熱中症対策のうち、まず町職員の部分でございます。

炎天下での作業が見込まれる場合、水分補給、作業時間の調整、そして複数人での対応等、職員それぞれでも自身を守る対策を取るよう引き続き注意を呼びかけるとともに、熱中症対策として、屋外での作業が見込まれる課に水冷ベストを配布し、職員が使用できるようにいたしました。

また、労働安全衛生規則の一部を改正する省令がこの6月1日より施行されたことを受け、全職員に向けまして、職場における熱中症対策の強化として周知徹底を図ったところがございます。当該改正におきましては、熱中症による健康障害を防止するために講ずるべき体制整備、健康障害を防止するために講ずるべき措置の実施手順など、事業者に対しまして熱中症対策として環境整備が義務づけられておりますことから、町として、各所属においての連絡・報告体制の整備、熱中症のおそれがある職員に対しての対応手順を示したものとなって

おるところでございます。

同じ熱中症対策のうち、続きまして消防団等への部分になります。

消防団の熱中症対策といたしましては、昨年7月に水にぬらすと冷たくなるクールタオルを全団員に配布いたしました。訓練は昨年に引き続き暑い時期を避けるとともに、訓練中の休憩時間の確保などの対策を行っておるところでございます。

また、今年度におきましては、町内の小学生の登下校時に毎週定期的に立哨活動をしていただいている方々に対しまして、保冷剤をポケットに入れて体を冷やすクールメッシュベスト、これと暑い日差しから体を守るために遮光加工された日傘兼用の雨傘の貸与、これを実施すべく進めておるところでございます。

私からは以上となります。

○福祉部長（浦 達三） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 浦福祉部長。

○福祉部長（浦 達三） 私のほうからは、遺族の手続負担を軽く、支援窓口の開設への質問に対して答弁させていただきます。

ご遺族が行うべき手続の多くは住民福祉課を主として、複数の関係課が協力して手続の援助を行っておりますが、河合町では手続が必要となる課の配置が同一庁舎内かつ近接した形であるため、一般的なケースでは1階ワンフロアで手続が完結します。また、相続人代表者指定届等の複数の課で共通して記載する書類等を住民福祉課がワンストップで受け付けた上で関係課に配付しており、事実上のワンストップ化が進んだ運用を行っております。

死亡届が提出された際には、「死亡届を提出された方へ」という各種手続に必要なものを簡潔に記載した用紙をお渡ししており、ケースに応じて必要な案内用紙を渡し、説明を行うことでご遺族の混乱を防いでおります。

なお、亡くなる方の多くは後期高齢者であり、また多くの場合には年金に関する届出も併せて行う必要があり、各種手続の省略には国や後期高齢者広域連合を含めた議論が必要であるため、国が進める自治体窓口DXの今後を注視してまいりたいと考えております。

以上です。

○教育振興部長（中尾勝人） 議長。

○副議長（岡田康則） 中尾教育振興部長。

○教育振興部長（中尾勝人） 私のほうからは、4つ目、熱中症対策についての子供たちの通学時の対策についてお答えさせていただきます。

子供たちの通学時の対策につきましては、昨年6月以降、新たな対策としての取組についてはございませんが、通学時に水筒やペットボトル、凍らしても可、スポーツドリンク等の持参を許可しているところがございます。また、暑さ対策グッズといたしまして、帽子、日傘、ネッククーラーを使用可ということで熱中症対策を講じているところがございます。

子供は体温調整が未熟なところがございますので、熱中症対策に関連する情報を注視しながら対応をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） まず、SAFの件から再質問させていただきます。

前回、ぼやけた形では答弁いただいたんですけども、前回のお話から3か月の月日が過ぎようとしていますが、具体的に目標で結構です、いつから行うのか。

また、公共施設での回収ということを言われましたが、庁舎なのか、図書館なのか、どこなのか、何も考えていないのか、公共施設か、その辺教えてください。

○環境対策課長（内野悦規） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 内野環境対策課長。

○環境対策課長（内野悦規） まず、ご質問いただきましたいつ頃から実施予定かというところでございます。現在考えておりますのは今年度中、令和7年度中の実施を考えております。

そして、設置場所についてですけども、現在検討しておりますのは役場の本庁舎、こちらです。あと町立公民館の2か所を現在のところ検討しております。

以上でございます。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） 分かりました。

ちょっと規模の違う政令都市での話ですけども、堺市で行われた調査では6,185件の回答があり、家庭での廃食油回収が始まれば参加したいかの問いに、65%の方が取組が持込みが簡単なら参加したいと答えています。場所については、近隣のスーパーが59%、それと次いでコンビニが38%。地域性もありますので、一概にこれがええとは思いませんけれども、その辺また参考にしていただきたい。改めて数のことですからアンケート取ることなく、うちの人口を堺市の人口で割っていただいたら、その辺おのずと数字が出ると思いますので、

よろしく願いいたします。

それとあと、上牧町の調査で分かったことがあります。昨年9月から約1か月、回収の油は380リットル、令和7年度の目標回収量は4,000リッター、業者への販売価格を仮に62円とすれば約25万円相当のお金が河合町にも入る予定です。

住民の皆さんに回収協力を求めることが必要ですが、お金の使用目的を先に決めることが大切ではないかなと思っておりますが、同じ考えですか、それとも別のすばらしいお考えをお持ちですか。

○環境対策課長（内野悦規） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 内野環境対策課長。

○環境対策課長（内野悦規） 油回収につきまして、先に使用目的を定めるということも大切なことだと思います。現在のところ、令和7年度中にスタートしようということで考えておるところでございますが、今ご提案いただいた使用目的も含めて検討させていただければと思います。

以上でございます。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） 私の個人的な考えで申し訳ないんですけども、人のエゴで苦しめられていた猫、大昔には琉球地方では三味線の皮になっていた。ある島には穀物を守るために放された猫、その猫のことを今取り組んでおられる地域の方がおられます。年間25万円の金額では大きなことはできないので、河合町で現在TNR運動、猫の殺処分を減らす地域猫活動を行っている地域が複数ございます。そのような団体やグループへの助成等に利用をしていただきたいと思います。と思っておりますが、いかがですか。

○環境対策課長（内野悦規） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 内野課長。

○環境対策課長（内野悦規） ご提案ありがとうございます。その件も含めて、今後検討させていただければと考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） S A Fは以上で終わります。

次、プラごみ削減、キャップの回収の項に移りたいと思います。

まず、プラごみの削減ということで、庁舎内の自販機のペットボトルをアルミ缶や紙パックの形に入れ替えていただくことはできませんか。

また、河合町には観光振興課がありますが、来庁された方へおいしいお水やお茶を飲んでいただく、そのようなお考えはございませんか。先ほどの答弁で部長のほうからも、過去にはやっていたと、コロナ禍でやめたと。もう5類になっていますし、そろそろやってもいいんじゃないかなと私は考えていますけれども、いかがですか。

○総務課長（西村直貴） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 西村課長。

○総務課長（西村直貴） 現在設置している自販機のペットボトルの制限という部分でありますけれども、今後、設置しているもしくはまた設置される事業者に関しまして、そういった対策を含めて相談させていただきたいと考えています。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） これからもよろしく申し上げます。これからの暑い日を迎え、熱中症対策の上でも水分補給は大切になります。マイボトルで行うようにしてまいりませんか。

ここからは、町長にお伺いいたします。

ご存じと思いますが、大和川の堰堤道路、土曜日、日曜日、祝日には多くの自転車が多方面から来ております。ぜひ、できれば庁舎までお越しいただき、鍵の開閉等の問題ございしますが、おいしいお水やお茶を飲んで休んでいただきたい。少しでも河合町への関係人口を増やしていきたい。それが将来の人口増へつながるきっかけになればと思いますが、森川町長、賛同して検討していただけますか。

○町長（森川喜之） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 森川町長。

○町長（森川喜之） 佐藤議員のご質問にお答えいたします。

やはり、真夏になってくればどうしても水分補給を取っていただければならないと。その中で、ペットボトルを使わずに、まずマイボトルでというお話かなと思います。

ご質問いただいた熱中症対策にも様々関係することですが、真夏に来庁される住民の皆様などへの水分の確保は大変重要なことと考えております。

一方で、いつでも使えるウォーターサーバーなどとなりますと、休日や閉庁時の対応を含

めて考えなければならないと考えております。設置場所やメンテナンス等、また衛生面などの課題を整理し、検討を行ってまいりたいと考えておりますが、設置場所、庁舎が閉まっているときにどこで給水をしてもらうか、またどの辺りで給水をしてもらうかということも含めて検討をしてまいります。よろしく申し上げます。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） WEST NARAに参加、観光課を新たに開設、森川町長であればやはり何とか賛同していただけたらと思いますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

それと、先行地として神奈川県横須賀市や大和市、特に大和市は珍しいなと思ったのは、カウント式で出た水の量でペットボトルが何本節約できたか、エコで、そういうことを広報紙で発表しています。それと長崎市、甲府市。甲府市は独自のおいしいお水が飲めますということで大々的に観光アピールをしています。そういったことで皆さんいろいろ努力されているので、うちも負けないようにやっていきたいと思ひます。

それと、近隣町では三郷町の取組が、これ古い新聞なんですけれども、令和5年6月7日の某新聞にあり、町長がコメントされています。プラごみ削減だけでなく、熱中症対策や子供たちにSDGs教育にも役立つはずということで、マイボトル、会議にもペットボトルが並ぶようなことはないと思っております。そのように町を挙げて取り組むということが、住民に対してもエコの喚起になるのではないかなと思ひますので、よろしくお願ひします。

それと、キャップの回収で、近隣ではキャップを回収した、ネットで調べると発展途上国の子供さんに言うたらワクチンというのが出てきます。でも、近隣町、もう名前出しますけれども、上牧町の場合には車椅子、もう2台もらいました、3台もらいましたとやっているんです。そうしたら、選挙のとき車椅子も置いていますけれども、うちも、投票来るのに、いろんなどころに、場合によってはお隣の福祉施設に寄附してもいいですよ、町から。

そういうことなので、できたらちょっと周りの町の動きをしっかりと勉強してやっていただきたいなと思ひますけれども、その辺いかがですか。

○環境対策課長（内野悦規） 議長。

○副議長（岡田康則） 内野環境対策課長。

○環境対策課長（内野悦規） 議員おっしゃっていただきましたように、近隣の市町村、確認のほうをさせていただいて、こういった取組内容等について確認をさせていただければと思ひますので、よろしくお願ひします。

以上でございます。

○4番（佐藤利治） はい、分かりました。ありがとうございます。

次、遺族の事務負担を軽減ということへ入りたいと思います。

私自身、老人会の若者を自負しておりますが、もうすぐ65歳になります。現在、人生100年という言葉があります。悲しいお話ですが、順番に天国に行くようになります。悲しみのどん底のとき、残されたご家族に職員が寄り添い、事務負担を減らすサービスを始めませんか。考え方により、職員の事務手続の準備が軽減されるのではと考えますが、いかがですか。

○副議長（岡田康則） 浦部長。

○福祉部長（浦 達三） ただいまのご質問なんですけれども、今回、一般質問をいただきまして、各近隣町を調べさせていただきました。確におっしゃるように、手続を書いたハンドブック等、もしくは一覧表というのも確認させていただきました。非常に有効であるというふうに確認しておりますので、福祉部のほうとしましてはこれに、この一覧表とかハンドブックに代わったものを考えていけたらいいかなというふうに考えております。

以上です。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） 先ほどから述べているように多岐の手続、ざっと言いますと住民課で印鑑登録、マイナンバー、国民健康保険、高齢者医療保険等、税務課、町税、軽自動車、福祉課、介護保険、年金はよその年金事務所へ、外部の、これは全くごく一部です。個人の不動産、山林財産があればもっと多岐になります。

前日に予約、来庁、椅子に座れば各課の職員が連携して来ていただく、そのようなことは無理ですか。

それと、過去に障害をお持ちの方が1つの窓口で手続をされたとお聞きしましたが、前日に予約等があり、準備できたのですか。

○住民福祉課長（古谷真孝） 議長。

○副議長（岡田康則） 古谷住民福祉課長。

○住民福祉課長（古谷真孝） ワンストップの窓口を設けている団体の多くは、分庁舎に福祉の部分があるような役所が多くございまして、それに対して河合町は1つのフロア内で福祉の部門も完結してございますので、かなりのワンストップのサービスはできていると承知し

ております。

過去に、その障害の方が座ったままで手続していただいたというのは、あくまで予約なしで、あくまでその人の状況を見て移動するのが困難であると判断した場合、各担当に来ていただいて住民福祉課の窓口で完結するような運用を行っております。

ただし、住民福祉課の窓口、人があふれかえるような部門、部署でございますので、全ての方をそこでワンストップするにはちょっといろんな問題が出てくるのかと承知しております。

以上となります。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） 分かりました。

今回、おじさんの葬儀出しました。死亡届は河合町に出しましたので、死亡届を出されたお方へというこの1枚だけの紙いただきました。手続は近隣町に行きました。5枚のお悔やみ手続リストというのを頂きました。その後、大阪府の貝塚市から40ページのお悔やみハンドブックというのを頂きました。なぜ同じことを手続するのにこれだけの差があるのか。よく言えば河合町のこの1枚は非常に端的にまとめていただいていると、悪く言えばいいかげんと、どっちなのが正解なのか私は判断つきませんけれども、できたら皆さんがいいなと思うような。

中には、ホームページで公表しているところもあります。だから、そういうようなやつを何かうまいこと冊子をできたらつくっていただくということはどうでしょうか。この貝塚の40ページのやつも、ちゃんと裏に、裏の後ろのほうは遺産整理や行政書士の広告が入っています。だから、そういう意味で、そういうのを利用すれば少ないお金でできるんじゃないかなと思いますので、その辺いかがですか。

○住民福祉課長（古谷真孝） はい。

○副議長（岡田康則） 古谷福祉課長。

○住民福祉課長（古谷真孝） 我々の運用の特徴としましては、この死亡届をされた方へというワンペーパーを軸としつつ、その人に応じた案内というのを加えていくことで説明を行うという方式を取っております。

ただ、先ほど部長も答弁いたしましたように、案内の在り方であるとかアップグレード、手続に関する住民各位の利便性の向上は私どもの興味の一つでございますので、今後検討し

てまいりたいと考えております。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） 分かりました。

何パターンかつくらのあかんということありましたけれども、それを出すんじゃなくて持っておくという形でも、この方にはこのパターンだということでもいいので、何かひとつ前向きに考えていただけたらと。

あと、それと質問なんですけれども、北葛城の北葛4町での時間の比較やサービスの内容の確認はされていますか。

○住民福祉課長（古谷真孝） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 古谷課長。

○住民福祉課長（古谷真孝） 行っております。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） 行っていて、聞いてどのような、うちと比較してどのような結果なんでしょう。

○副議長（岡田康則） 古谷住民福祉課長。

○住民福祉課長（古谷真孝） 結果としましては、河合町かなり早いと承知しております。

といいますのも、1つの庁舎内で完結するというすごく大きなメリットございまして、近隣町ですと庁舎内でワンストップという窓口がありながら、そのワンストップが終わった後に次の庁舎に移動して手続を行うという方式を行うため、かなりの時間が長いという現状でございまして。それに対して河合町は1つの庁舎内で、ワンフロアで完結するというのが一般的でございまして、かなり早いものと承知しております。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） 森川町長にお伺いします。

河合町のお悔やみ手続は他町に比べて、打合せでも聞きましたが、時間は1時間もかからないと聞きましたが、できることならご遺族の方が移動をしない、全く、前日予約等を行い、1つの窓口で処理できるワンストップを行っていただきたい。そのためには、専門窓口複数職員の職員が必要と考えています。本年しっかりと検討していただき、令和8年度には施行し

ていただきたいと思いますが、いかがですか。何かお願いになりましたけれども。

○町長（森川喜之） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 森川町長。

○町長（森川喜之） 佐藤議員のご質問にお答えします。

今お聞きになられたことについて、本当に他市町村の参考も踏まえて、スムーズに行けるように考えてまいりたいと思いますし、何分組織改革につながる話でもあるために、今後の国の動向も踏まえながら、広い視野を慎重に検討してまいりたいと考えております。いいやつはまたすぐにでも進められるように検討してまいります。

以上です。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） 町長、ありがとうございます。

熱中症対策に入りたいと思います。

衣替えも、昔は6月、現在は温暖化対策で5月からのクールビズが行われておりますが、河合町の考え方も同じか確認したいです。

例を出せば、もうやらないと聞いていた職員での雑草の除去作業、回転物から15メートル以上離れ、保護具をつけて暑さ対策に空調服の着用を基本にしていきたい。民間の建築現場では、空調服を着用しないと入場できない現場もあります。このような意識で取り組むことができますか。

また、河合町からの業者への発注物件でも、けが人を出さないためにも同じと思っておりますが、いかがですか。

○総務課長（西村直貴） はい。

○副議長（岡田康則） 西村課長。

○総務課長（西村直貴） 同じく、先ほど部長のほうから申し上げました安全規則の改正という部分もあります。そういった部分で、町としてもしっかりと熱中症対策に関しては取り組んでいきたいと考えています。

以上です。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） 空調服の着用はどうですか。

○副議長（岡田康則） 西村課長。

○総務課長（西村直貴） 空調服に関しては、現段階では配付という形はできておりませんが、昨年、水冷ベストというのを9つの課、実際屋外で作業を行う課に対し2着から4着、1つの課に対し配付をさせていただいております。作業に当たるときには、このベストを使って作業に当たるようにはできるようにはなっていると考えております。

以上です。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） 先ほど、中尾部長のほうからも立哨の方の件はお話ありましたけれども、子供たちの通学時でクーリングシェルターをつくることのできない場所は、いつもお世話になっております立哨の方へ保冷剤と飲料水の入った保冷バックを支給。先日、各部署にはサンプルをお見せしました、家から持ってきて。手間かけますがお願いするような考えはありませんか。

○副議長（岡田康則） 中尾教育部長。

○教育振興部長（中尾勝人） お答えさせていただきます。

先日、課長のほうにクーラーボックス等々をお持ちいただいて、説明のほうを受けているところでございます。非常に子供たちのためにはなるという認識は同じでございます。

ただし、通学ボランティアの方も炎天下の中、非常に暑い中歩いていただいているという認識でございます。それに加えて、そのクーラーボックスも持って一緒に歩いていただくという形になると、非常に大きな負担にもなる場合も起こり得るかと思っております。

ただし、そういった提案をまた周知させていただくことによって、子供の安心安全につながるという認識もございますので、子供たちの熱中症対策、そういったことも含めて大きなところから通学ボランティアの方にいろんなお話をさせていただきながら進めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） おっしゃること分かるんですけども、できない、無理があるで終わらせるのではなく、もうこれでどうだ、どうだろうという考え方を常に維持していく必要があると思っております。それでも事故は起こると思っておりますが、同じ考えですか。

それと、奈良市は133か所のクーリングシェルターが9月30日まで稼働しています。主に公共施設と郵便局が中心と伺っておりますが、河合町は各郵便局に相談、お願いしておりますね。その辺を教えてください。

○教育振興部長（中尾勝人） 議長。

○副議長（岡田康則） 中尾教育部長。

○教育振興部長（中尾勝人） お答えさせていただきます。

同じことになりますが、ボランティアの方の安全面もしっかりと考えながら、子供の安心につなげていけたらと考えております。

クーリングシェルターのお話をいただきました。こちらにつきましては、学校のほうにも周知をさせていただきまして、9か所あるというところを学校の先生と共有させていただきながら、また郵便局、あと残り3つございます。そういったところもクーリングシェルターの意味も学校のほうと共有させていただきまして、子供の安心につなげていると。また高齢者の安心にもつなげるということも共有させていただいているところでございます。

以上でございます。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） 郵便局も広報かわいでお知らせがありましたけれども、やっているという事で。これは同じようにそのお知らせの後ろに書いてあったんですけども、13時から14時まで今、郵便局閉まることあるんですけども、そのときの対応というのは打合せされていますか。

○総務部長（小野雄一郎） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 小野総務部長。

○総務部長（小野雄一郎） 町内の3郵便局の局長さんが町長室にお越しに、来られまして、そういった働き方改革の一つとしてそういったことはあるということで、事前にお声がけはいただいております。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） 分かりました。よろしく引き続きお願いいたします。

空き地に繁茂した雑草の除去についての条例についてに取りかかりたいと思います。

通告書にもあるんですけども、条例の改正を議案として上程するのはしかるべきタイミ

ング、住民の方からどんなタイミングなんやと。

それと、検討は止めることなく行ってきた。いつどのような、令和3年12月から私、言うていますけれども、いつ、時系列でできたら、できるだけ、言える範囲で結構です、言うてください。

○環境対策課長（内野悦規） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 内野環境対策課長。

○環境対策課長（内野悦規） 空き地の条例に関する検討の進捗ということです。

まず、これまでの流れについてなんですけれども、令和2年のときに佐藤議員のほうから一般質問におきまして空き地の条例についてということでご質問をいただいております。

そして、2年の9月議会のところでは条例の一部変更していただけないかというところ、各土地の管理者の方へ毎年2回、決められた月に草刈りを実施していただけないかということでご質問をいただいております。

その後、令和3年12月議会におきまして再度ご質問いただきまして、町としては運用においてギアを一段上げるというところで、この令和4年度からはこれまで依頼文書のみであったものが、指導・助言まで行うようにいたしております。

その後、令和4年度10月か11月かの時期だと思うんですけれども、こちらのほうで空き地の草刈り等管理委託制度というところで、新たな制度を考えておりました。そして、4年の12月議会におきまして進めていただきたいというところでお話いただいております。

その後なんですけれども、管理委託制度について詳細に検討させていただいた結果、この考えておりました委託制度については、このままでは具体的には実施には至らないということが判断させていただきまして、その後、続いて空き地の適正管理の支援制度というものを考えておりました。

これについては、町のほうで各空地のほうの現場に赴きまして、現状の写真をお送りさせていただくことによって、自発的に適正な管理を促すというものでございました。しかし、この制度についてもその後、実際土地の所有者が実施いただけるかどうかというところで疑念が浮かびまして、これも一旦やめております。

その後、令和5年12月におきまして、条例改正の内容及び条例改正について指導・助言の次に勧告を入れること、そして料金を過料に変えることについて御提案をさせていただいております。

その後なんですけれども、一旦ご提案はさせていただいたんですけれども、佐藤議員がこ

れまでもおしゃっておりますように実効性、条例改正をすることによってどれだけ実効性が担保されるかというところで運用面で疑念が生じたので、再度検討を進めさせていただくことにしました。

その後、昨年7月5日に新聞記事で空き地の荒廃防止に新制度というところで掲載のほうをされまして、掲載がされたことによりまして令和7年4月から新しい空き地の管理に関する制度ができるということを認識させていただきましたので、一旦はこの条例改正の検討は保留させていただくことにしました。

その後、令和6年12月、国のほうから制度改正はしないと。そしてその代わりにガイドラインを出すということを伺いまして、現在本年度4月に国のほうからガイドライン提示されておりまして、それを元に検討を進めている最中でございます。

以上でございます。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） もう終わったことの話いいですよ。12月議会でやり取りして終わってますやんか。私が国土交通省に直接お伺いして、書面でくださいということで書面で渡しているでしょう、担当課に。何て書いていましたか、渡した紙に。河合町の条例改正、うちの方針を待つのではなく速やかに行ってくださいと。国がそういうふうに言うているんですよ、書面入れて。それを何で守らへんのですか。

ちょっと本題に戻ります。原点の話します。4年前から取り組んでいる案件です。何回も同じことを質問すると税金の無駄遣いになると住民の皆さんからも叱られますので、結論ありきで厳しいお話になりますが、よろしく願います。

空き地に隣接するお方、通行している住民や通学中の子供たちに対して、河合町は空き地に繁茂した草や樹木をどのように管理していきたいのか全く見えません。教えてください。

○生活環境部次長（森川泰典） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 森川生活環境部次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 佐藤議員がおっしゃった空き地に繁茂している雑草等の影響は、いろんな形で考えられると思います。当然、空き地条例、平成7年に制定しております。その中で運用していくんですけども、今回、先ほど内野課長も言いましたように、今年の4月に国交省からガイドラインが公表されました。その中身を当然確認させてもらった中で、今の条例に足りないもの、必要なものを今、整理をしております。

また、追加とかもう少し詳しい説明等も必要と考えられますので、その辺の作業をこれから進めていきたいというふうに思っております。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） 二点質問します。

草を刈っていただきたいと自治会や近隣のお方から連絡があり、所有者の検索、連絡、遠くの方には封書で郵送、いつ刈るのかを協議、施工後の確認、これを同じ相手に毎年繰り返して行くケースが大半みたいです。過去には遠くにお住まいの方を何度も訪問、なぜ無駄なことを繰り返すのか。住民の皆さんの税金で動いているのに、なぜ毎年同じことを繰り返すのか。傍聴の住民の皆さんがご理解いただけるお話を聞かせてください。

それともう1点、町職員の業務の軽減、経費削減の観点から条例改正を考える時期と思いますが、いかがですか。これ令和3年の12月広報かわいに出ている議事録からの抜粋です。

どない答えたと思いますか。答えてくださいよ、答えている内容を。

○生活環境部次長（森川泰典） はい。

○副議長（岡田康則） 森川生活環境部次長。

○生活環境部次長（森川泰典） すみません、令和3年12月議会で町からの答弁ですけれども、運用においてギアを一段上げるという回答をしております。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） 広報かわいに出ていた文面を読みます。

条例改正につきましては、職員に対する作業の軽減、経費削減を考慮しながら、現行条例における強化策など内容を再検証した上で業務の効率性を考え、近隣自治体の実施例等を調査し、参考にしていきたいと思っておりますということで、環境部ということを出しております。

これ令和3年12月ですよ。そこから何しているんですか。やる気がないんですか。やるつもりがないんだっらないと言うてください。これ以上言いませんから。

○副議長（岡田康則） すみません、拍手はやめてください。

○生活環境部次長（森川泰典） 議長。

○副議長（岡田康則） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） すみません、当然空き地条例改正の審議等いろいろと時間かけていると思っております。当然、今、佐藤議員おっしゃっているように、税金等々を使っ

での運用になります。

ただ、1点言えるのは、空き地も空き家も同じことなんですけれども、当然事案が発生した場合、担当課からこういう状況なので対応してくださいという管理通知を必ず出すことが必要と思います。

なお、この管理通知については当然担当課の記録にも残りますので、その作業は十分しておるといふふうに認識はしております。

その上で、先ほども述べていますように、今回ガイドラインが公表され、中身を確認した上での検討をする方向で検討していることしか今、言えません。

今、一般質問上ですので、詳しい話ちょっとしにくいこともあります。今後、佐藤議員も含めて打合せした上で相談させてもらうというふうに思っております。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） 次長にはきついお話で申し訳ございませんが、新任で就いたばかりで、平成7年の12月12日に条例施行から無駄遣いは始まっております。今年は平成37年です。30年間、職員の給料や切手代、封書、かかった時間、100万、200万のお金では済まないと思いますよ。それを何回も無駄をやめませんか、職員の働き方改革しませんかと、条例にうたって職員が楽できるようにしませんかと、そういうふうに言っているわけです。ルールの変更が必要と思わないのか、このような無駄遣い、どなたの責任なのか言うてください。過去の町長ですか。

○生活環境部次長（森川泰典） はい。

○副議長（岡田康則） 森川環境部次長。

○生活環境部次長（森川泰典） 先ほども申しました、まず役場の職員として対応しなければならない内容と考えておりますので、担当課として税金の無駄遣いというふうには考えておりません。

先ほど言いましたように、当然、私も4月から環境部次長になってこの話を聞かさせてもらいました。当然中身を確認させてもらった上で今、次長として条例の改正が必要というふうに認識はしておりますので、今年度中のどこかで上程をさせてもらうというふうに思っております。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） 無駄じゃないということをおっしゃいましたけれども、毎年同じこと指摘されて、同じこと対応していて、何で無駄じゃないんですか。はっきり言ってほしいんです、できないならできないと。このまま無駄遣いを続けると。町の借金も増えていくでしょう。条例をつくること、平成7年12月12日がゴールじゃないんです。毎年今の社会情勢に合っているのか、今お住まいの住民の生活を一番に守る作業を繰り返し必要と考えていますか。考えていないならいいとはっきり言ってください。もう二度とこのお話はしません。責任がある方に責任を、9月議会にでも取ってもらいます。よろしいですか。

○生活環境部次長（森川泰典） はい。

○副議長（岡田康則） 森川次長。

○生活環境部次長（森川泰典） すみません、何度も申し上げておりますが、まず空き家も同じ対応をさせてもらっております。当然事案が発生した場合、必ず所有者、管理者等に情報を提供して、こういうことで対応してくださいというふうには、まず管理通知、空き家でも出しています。当然、条例に基づく指導、命令、その後に勧告等々、当然改正案としては検討しております。

なお、最終的に管理されない場合には代執行ができるというふうになっておりますので、そのことも視野に入れながら内容について検討していきたいというふうに思っております。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） 打合せの段階で町長のほうにも、令和4年の3月に上程したいという文面のそちらの部署から出た書類まで渡しているんですよ。ばかにしているのかなと思って僕は思っています。もし私の令和2年3月議会からの質疑の進め方がよくないなら、どこが悪いのか具体的にご教授ください。また、私の考え方をより多くの住民の賛同が必要なら、署名が必要なら言ってください。何名以上の署名で条例改正をやってくれるのか。理解しがたいことが多過ぎです。

このまま続けるなら、困っている住民の声を無視、議会での議事録を読み返しても、議会や議員軽視しているのかなと考えに至りますが、そのとおりですか。

○町長（森川喜之） 議長。

○副議長（岡田康則） 森川町長。

○町長（森川喜之） 佐藤議員のご質問にお答えします。

以前から様々な検討はしておるとは思いますけれども、この条例は本当に住民の皆さんの良

好な生活環境を守るためには、空き地、また空き家の管理の適正化を促す条例と一緒に、条例改正が早急に必要であれば、すぐに条例改正の手續に着手していきたいと思ひます。

今しばらく担当課と協議をさせていただきますので、どうかご理解のほどよろしくお願ひいたします。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） 町長、ありがとうございます。

今から森川町長に質問をしようと思ひていました。すみません。

森川町長におきましては、町議会議員の経験があると伺っておりますが、教えていただきたい。職員が調査研究し提案していただいたことに、私は何でも反対ではございません。協議を重ね、よりよい施策を行うことが必要です。私自身、現場第一主義で、調査なくして発言なしの思ひで取り組んでいます。毎回の定例会でも、全国の先行事例を調べてはご報告しておりますが、一部の職員からは検討、調査いたしますとの発言で全てが完結したと勘違いされている方もおられるみたいです。河合町では今はできない、河合町には合わない等の、何で協議や返答はないのか。もう検討します、調査いたします、これで議会乗り越えるやろうと、そう考へている方が一部おられます。

私が思ったのは、日本語が通じないのか、私の質問がいかげんなのか、どうしたら住民の皆さんへ気持ちのいい返事ができるのか、町長、考へていただきたいんです。過去に幾ら納税された方が河合町の功労者やったか。草がぼうぼうになって、1.5メートル以上も草がなっているところ、子供が引きずられて事件が起こったときに誰が責任取るのか、そういう現状を見てもらうためにも盆正月には町長もしくは副長のパトロールを我が地域では行ってきました。うちで終わったらよその地域行きたいけれども、できないんですよ、まだ。その辺を、私自身も今、迷っております。森川町長のお考へ、ご指導いただければ幸いです。

○町長（森川喜之） 議長。

○副議長（岡田康則） 森川町長。

○町長（森川喜之） 佐藤議員のご質問にお答えいたします。

私も、以前から様々な環境整備を自分の目で見て、早急にやれるところはやっていきたいと思ひております。今のご質問のとおり、早急にやらなければいけないところは早急にやっていく。

ただ、この問題に関しましては、やはり個人の土地ということもあり、やはりまたどのあたりで草を刈っていくのかとか細かい詳細についても今後詰めていかなければならない。また、その中でやはり代執行というような形で最終的に町がお金が出すのではなしに、土地の所有者に請求できるような形もやはり考えていかなければならないと考えておりますので、取組については全般環境について住民の皆さんがお困りになることや、また危険を感知されるようなことがあれば、早急にどんな問題においてもすぐに対処をしていきたいと、また取り組んでいきたいと考えております。

今すぐにやらないというのは、これはちょっと内部の話も、また法的な話も踏まえて取り組んでまいりますので、どうかご理解のほどよろしくお願いいたします。

○4番（佐藤利治） 議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員。

○4番（佐藤利治） 町長、ありがとうございます。

先ほど次長のほうからもご報告あったように、ごめんなさい、課長のほうからですかね、令和2年、時系列でいいますと令和2年からほったらかしなんです、僕的にいうと。私が至らないところがあれば教えてほしいんです。こんなふうにするやり方がまずいと。こんなふうになっているから、職員が怒っているから前へ進めたくない、そういうことであるのであれば。

好き嫌いの話じゃなくて、はっきり言ってもう仕事なのでやらなあかんのですよ、言うたら。だから、そういう意味で、それで条例改正を行うなら、令和3年の12月の質問でも、私これだけは明記してほしいとお願いもしています。小学6年生男子の全国平均身長は155.9センチです。そのときの年の。1.5メートルまでで除草という基準、これをつけてほしいと。これは子供を事故や事件から巻き込むことがないように。また最低年2回、仏様が帰ってくるお盆とお正月前後で考えていただきたい。今年の正月は駄目でも、来年こそ気持ちよく住民の皆さんが過ごせるようにしてくださいということで、令和3年の12月締めくくっております。その後、動きがない。やる言うたことをやらん。だから怒っているわけです。

それで、町長に1点だけあるんですけども、先ほども言うたように今お住まいの方、子供がプールでもできるだろうと、広い庭があつておうちに越してきた。でも草ぼうぼうで虫が飛んできてプールもできないと、その現状。それと、もし冬場にたばこのポイ捨てで火が出た、壁が焦げた、周りの家の人は、ご存じのように明治時代にできた法律で守られております。自分のところの火災保険を使って直さないといけません。発火した場所がポイ捨ての

火やったらなおさら責任を持つことは何も問われていません、法律で。

そのようなことがある中で、何で今お住まいの方を守ることができないのか、その辺を悔しく思っております。町長その辺、今日言うていただいたこと、ちょっと真摯に、もう来月からでも動けるようにしていただきたいです。よろしいですか。

○町長（森川喜之） 議長。

○副議長（岡田康則） 森川町長。

○町長（森川喜之） 早急に検討させていただいて、早いうちに結論が出るように。またこの条例を変更にするに当たっては、また議会の承認も、また先生方のお話もしっかりと聞かせていただいて、対応してまいりたいと思います。

本当に、行政というのは動くのが遅いのかも分かりませんが、しっかりと対応してまいります。

○4番（佐藤利治） はい、議長。

○副議長（岡田康則） 佐藤議員、あと3分切りました。

○4番（佐藤利治） ありがとうございます。

町長、ありがとうございます。今日、協議したことが1日でも早く施行できて、住民の皆さんへご報告できるよう、できれば議長ともご相談の上、住民の方も大変関心持っておられますので、協議会等を一緒に開いていただいて、住民の方にも活発な意見を見ていただき、そのようにやっていただきたいなと思います。よろしく願いいたします。

以上で、佐藤利治の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

◎散会の宣告

○副議長（岡田康則） 本日はこれで散会したいと思います、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○副議長（岡田康則） ご異議なしと認めます。

よって、本日はこれをもって散会いたします。

お疲れさまでした。

散会 午後 3時44分

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長 疋 田 俊 文

署 名 議 員 馬 場 千 恵 子

署 名 議 員 岡 田 康 則